

益人 米沢有為会々誌

復刊 第73号 令和5年12月



農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋

日 山

日本橋 日 山 本 店

中央区日本橋人形町2-5-1

TEL 03 (3666) 5257

すき焼き割烹 日 山

中央区日本橋人形町2-5-1

(予約が必要です)

TEL 03 (3666) 2901

日 山 亀 戸 店

江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1

TEL 03 (3638) 1129

日 山 大丸東京店

千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店内B1F

TEL 03 (3211) 2901

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

益人益社 米沢有為会々誌

復刊第73号



国宝上杉本洛中洛外図屏風 左隻1扇上部の場面

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



表紙は左隻 1 扇上部の場面です。
〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口は10万人と言われているので、約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7（1995）年国宝となり、上杉家文書が平成13（2001）年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、洛外の農業の様子 of 1 場面である。上杉本には当時の農業が7 場面ほど描かれている。田起し、種まき、菜摘、麦の収穫、稲刈り、実は箕を使い異物を振るい、杵と臼で脱穀している様子。また、米俵を運ぶ荷車や人が背負っている様子など。

また、よく見ると、かやぶき屋根の農家も見える。これらは京都の人口の食料を提供しているものと思われる。ここでは牛の力を借りて作業していることがわかる（牛耕）。手前は婦女子の旅姿と荷物担ぎと思われる。

目次

扉	1
御挨拶	4
更に改革を	6
本部活動報告	8
第十(通算一三六)回定時総会報告	8
文化講演会	12
本部各部門の主要活動報告	17
人工知能の可能性と生成AI	28
奨学生だより	29
支部だより	31
東京支部	31
米沢支部	32
仙台支部	35
北海道支部	37
興譲館寮だより	39
東京興譲館	39
仙台興譲館	42
米沢有為会だより号外「育英事業の学生募集」	44
我妻榮記念館だより(我妻榮没後五十周年・同記念館開館三十周年記念事業を含む)	46
我妻榮先生記念事業協賛金応募者「芳名」	50
米沢有為会文化大学	55
第三十二回「実践的な在野学の冒険―湘南科学史懇話会二十五年度の歴史」猪野修治氏	55

第三十三回「満州」と米沢有為会	57
「宇佐美勝夫の役割」菊地隆雄氏	59
第三十四回「我妻榮先生の人となり伝える」矢尾板操氏	61
置賜市町だより	61
米沢市	64
長井市	67
南陽市	70
高畠町	73
川西町	76
小国町	79
白鷹町	82
飯豊町	85
高校生小論文コンテスト	101
会員の広場	102
郷土の本紹介	105
法人賛助会員名簿	107
公益社団法人米沢有為会役員名簿	111
公益社団法人米沢有為会組織一覧図	112
本部・各支部事務所等所在地	113
米沢有為会からのお願い	114
置賜地区自治体所在地	115
後記	116
広告掲載企業一覧	116
広告	116



御挨拶

名誉会長 上 杉 邦 憲

『米沢有為会々誌』第七十三号の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

未だ油断を許さない状況ながら、コロナ禍もようやく治まりつつあるようですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。温暖化ではなく沸騰化と言われた今年の異常な猛暑に堪え、急に深まった秋空の下、何年ぶりの芋煮会を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。

私事ながら、私も八月末にコロナに感染しましたが、幸いにしてごく軽く済み、この秋は松岬神社秋の例大祭はじめ米沢での様々な催しに参加することが出来ました。特に今年は、米沢の生んだ偉人である「民法の神様」我妻榮博士の没後五十年で、且つ米沢有為会が管理運営する我妻榮記念館設立三十周年にあたることから、我妻先生の御命日にあたる十月二十一日（土）に米沢市と有為会の主催で開催された記念式典に平山英三会長とともに参加できたことは特筆すべきことでした。

我妻榮先生の生家で十七歳まで住まわれていた家は、老朽化して解体の運命にありま

したが、郷里を愛し、敬師の念篤く、郷土の青年子女の教育に熱心だった先生の生涯は有為会の理念とまさに同じであり、米沢有為会米沢支部を中心とした募金活動と市の補助金により、平成三年に有為会が購入・修復の上、翌平成四年に「我妻榮記念館」としてオープンしたものです。

記念式典は、記念館前に建立された銅像の除幕の後、式典、記念講演、パネルディスカッションが伝国の杜で多くの方々の参加のもとに実行されました。詳しくは本誌あるいは「我妻記念館だより」をご参照ください。本記念館が今後も郷土の先人について興味関心のある方たちの見学や学びの場として、また法曹界の方たちの研修の場として、多くの方々に利用されることを祈念しています。

また、本号発刊の頃には、第六回小論文コンテストの審査も終わり、地域と自分たちの未来に向けた若々しい高校生の意見が伺えると期待しています。時節柄か昨今興譲館入寮者も減っているようですが、東京や仙台に向かわれる置賜地域の高校卒業生が、日本でも珍しいと言われる素晴らしい興譲館寮への入寮を検討してほしいと思います。さらに、有為会事業の柱でもある奨学金制度も是非利用してほしいものです。

末筆ながら、理事、役員の皆様、我妻記念館や興譲館寮の運営に携わっておられる方々だけでなく、有為会を支えてくださっている会員の皆様に心から感謝するとともに、会員の皆様がますますご壮健にてお過ごしくださいますようお願い申し上げます、御挨拶いたします。



更に改革を

米沢有為会会長 平 山 英 三

令和五年の定時総会は久しぶりに対面で行いました。新型コロナウイルスの扱いがインフルエンザと同じ五類とされたこともあり、各支部でも歓迎会や芋煮会など対面の活動が増えています。引き続き十分な感染対策をお願いします。

この定時総会で公益移行後初めて定款を変更しました。これは特別決議であり、通常の議案の二・七倍にあたる総正会員数の三分の二の賛成が必要で、多くの方々に電話やメールで議決権行使を依頼しました。ご協力に感謝します。

定款変更の内容は、理事定数の規定を「十三名以上十五名以内」から「十三名以上十八名以内」に変更し、理事を三名増員するものです。公益法人への移行で理事が半減し、理事のいない支部ができました。これらの支部に対し、支部会員の意向を汲みながら、連携を強化し、活動を支援する体制を作ります。また、後述の奨学金の返済業務の強化も必要です。これらの理事の追加選任は、欠員になっている財務担当理事に併せて、令和六年の定時総会でご提案する予定です。

奨学金の返済はボーナス時の年二回であり、一回の返済が多額であることが返済遅延に繋がっていました。これを毎月返済とし、ゆうちょ銀行の「自動払込み」を取り入れました。この返済をめぐり訴訟をしました。一審判決は時効の成立を認めましたが、控訴審の

山形地方裁判所は時効の起算点についての当方の主張を認めて弁済を命じました。その後の担当者の真摯な説得により返済に漕ぎつけています。これからも返済者の立場に立ったきめ細かい対応を行ってゆきます。

令和五年十月二十一日（土）は我妻榮先生の没後五十年目の命日でした。また、令和四年は記念館開設三十周年に当たります。この二つを合わせ、米沢市との共催で記念事業を実施しました。我妻先生のお孫さんで名誉館長の我妻学先生のご一家も参加してくださいました。二十一日午前は、記念館前に新たに設置した我妻先生の銅像の除幕式です。午後には伝国の杜で記念式典、記念講演、パネルディスカッションを行いました。夕方からは上杉伯爵邸で先生を偲ぶ夕べが持たれました。記念の特別展示会では、我妻先生が一高時代に生涯の友と呼んだ中学の同級生本田吉馬さん宛に書かれた二・三五メートルの巻紙に毛筆で書かれた直筆の書簡で、額装したレプリカを展示しています。この記念事業は皆様のご寄附で賄いましたが、目標額の二倍を超える額が集まり、今も先生を慕う強い思いがよくわかりました。

十月二十八日（土）は高校生小論文コンテストの表彰式でした。今年新たに参加してくださった高校がありましたので、置賜地区十四高校全校が一度は参加したことになります。現在興譲館寮は東京、仙台とも入寮希望者が減少しており、その原因と対策を検討しています。学生寮紹介の動画を外注してユーチューブでの配信を開始していますが、置賜のケーブルテレビでの放映を検討しています。

奨学金制度は、令和二年に女子向け住居費補助型、地元若者定着支援型を設け、三つの類型で再スタートしましたが、その後の応募が少なく令和六年度は応募がありませんでした。改めて対応を検討します。

今後とも会員の皆様のご指導とご支援を受けながら改革に取り組んでいきます。ご協力をよろしく願います。

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、定時総会（第十回、通算二二六回）の報告

公益社団法人米沢有為会の第十回（通算二二六回）定時総会は、令和五年六月二十五日（日）十四時十分より、米沢市伝国の杜大会議室にて開催されました。

議案審議に先立ち、名誉会長上杉邦憲様よりご挨拶をいただき、また、米沢市長中川勝様より米沢有為会の活動に期待を込めたご挨拶をいただきました。

総会は、定款第十七条の規定により、平山英三会長が議長となり、開会を宣言しました。

初めに、有効出席者数について、現在の正会員数二二二名、当日出席正会員数二十八名及び議決権行使書提出会員数一三六名の合計一六四名、議決権行使書の無効は〇名、従って有効出席者数の割合は七十七・七％であり、定款第十九条の規定により本総会は成立している旨、五雲寺卓総務部長より報告がありました。これを受け、議長が議事録作成を事務局に指示し、議事に入りました。

第一号議案 令和四年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記載の「令和四年度事業・業務報告」に沿って五雲寺卓総務部長が説明し報告しました。

第二号議案 令和四年度決算及び監査報告（決議案件）

議案書掲載の「令和四年度決算報告」に沿って五雲寺卓総務部長より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、伊藤秀太郎監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 令和五年度事業・業務計画（報告案件）

議案書掲載の「令和五年度事業・業務計画」について五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第四号議案 令和五年度正味財産増減予算（報告案件）

議案書掲載の「令和五年度正味財産増減予算」に沿って五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第五号議案 理事・監事選任（決議案件）

定款規定により本定時総会終了と同時に理事、監事任期満了になることから、役員選考委（菅野憲幸委員長）推薦の次の候補者が全会一致で承認されました。

（一）理事

重任 伊藤 和夫 小野 庄士 加藤 国雄

加藤 正憲 菊地 隆雄 五雲寺 卓

須貝利喜夫 滝口 政彦 手塚 宮雄

平山 英三 矢尾板 操 横井 博

新任 工藤美知尋 鈴木 修治

退任 甲 國信 菅野 憲幸 森田 光雄

(二) 監事

新任 近野久左エ門 松崎 祐樹

退任 伊藤秀太郎 片平 善造

なお、新任理事及び監事の略歴は次の通りです。

(氏名) (略歴等)

工藤美知尋 昭和四十一年長井高校卒、東京支部理事、

日本海軍戦史研究所所長、東京鷹桜同窓会

(長井高校) 会長

鈴木 修治 昭和四十二年米沢興讓館高校卒、仙台支部

理事、元東北大学抗酸菌病研究所、宮城県

結核予防会健康相談所興生館所長

近野久左エ門 昭和四十三年米沢興讓館高校卒、米沢支

部理事、元山形県置賜総合支庁長、公益財

団法人浜田広介記念館理事長、仙台興讓館

寮OB 平成二十二年米沢興讓館高校卒、東京支部

監事、(株)リクルート勤務、東京興讓館寮O

B、奨学生OB

第六号議案 定款変更(決議案件)

定款第二十一条の理事人数を現状の「十三名以上十五名以内」から「十三名以上十八名以内」に変更する件について定款第十三条および第十九条第二項に基づき採決を行い、正会員総数の三分の二以上の賛成を得て承認されました。

二、第二回理事会

引き続き、第二回理事会が開催され、前期に引き続き平山英三理事が会長に、加藤国雄理事が副会長に選任されました。次に、平山英三会長を議長として、以下の人事を決議しました。

会長(代表理事) 平山 英三

副会長(代表理事) 加藤 国雄

総務部長 五雲寺 卓

育英事業部長 小野 庄士

地域振興部長 横井 博

文化広報部長 手塚 宮雄

以上を以て、定時総会および理事会を終了しました。

三、教育文化功労者、産業功労者並びに特別顕彰の表彰式

表彰式

令和五年度の教育文化功労者、産業功労者並びに特別顕彰の表彰状伝達式が六月二十五日（日）米沢市の伝国の杜において行われ、上杉邦憲名誉会長から受賞者に賞状と記念品が授与されました。

今年度は、教育文化功労者及び産業功労者の表彰は各一個人に、特別顕彰は優秀賞一個人、奨励賞五人に行われました。（以下、学校・学年は令和四年度のものです。）

○教育文化功労者

▼梅津幸保氏

郷土史並びに社会教育等の分野で次の様に優れた功績があり、また令和四年度斎藤茂吉文化賞を受賞された。

- ① 草木塔の研究 平成十年に『草木塔を訪ねる』を著し草木塔研究に大きな影響を与えた
- ② 歴史の道土木遺産万世大路の調査等、その普及活動
- ③ 米澤前田慶次の会による地域おこし
- ④ 米沢藩古式砲術の保存・伝承
- ⑤ 万世梓山獅子踊りの保存と後継者育成
- ⑥ 置賜民俗学会における研究集会

○産業功労者

▼増村力氏

一期三年にわたり会頭として米沢商工会議所の運営及び地域経済の発展に次の様に寄与された。新型コロナウイルス感染症への対応として「新型コロナウイルス感染症対策特別相談窓口」を設置、融資や給付金手続き等の各種支援策や景気浮揚策の情報提供・活用促進等を行った。また、山形県第一号の認定の「経営発達支援事業」を活用し会員事業所の経営課題に伴走型支援を強化した他、企業内のＩＴ化、デジタル化の推進等経営支援に注力した。さらに、米沢市委託事業「人材確保・定着促進事業」では新卒者の就職から人材育成定着までの支援を行った。地域振興では、令和三年四月に東北中央自動車道（相馬く福島く米沢間）が開通し地域の活性化に大きく寄与した。

○特別顕彰 スポーツ活動

（優秀賞）（個人）

▼紺野稜真さん（九里学園高等学校三年）

【陸上】第七十五回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 男子百十mH 優勝、男子四百H 優勝
第三十八回U二〇日本陸上競技選手権大会 U二〇男子四百mH 優勝

第七十七回国民体育大会 男子少年A三百mH 優勝

〔奨励賞〕（個人）

▼清水公大さん（米沢市立第六中学校三年）

〔スキー〕 令和四年度全国中学校体育大会 第六十回全国中学校スキー大会 男子スペシャルジャンプ 第二位

▼遠藤ななさん（九里学園高等学校二年）

〔スキー〕 第三十五回全国高等学校選抜スキー大会 女子スノーパード回転 第二位

▼遠藤 悠さん（九里学園高等学校三年）

〔スキー〕 令和四年度国民体育大会冬季大会スキー競技会 少年男子大回転 第三位

○特別顕彰 文化活動

〔奨励賞〕（個人）

▼田村理音さん（米沢市立北部小学校五年）

〔作文〕 全国農業協同組合中央会・山形県農業協同組合中央会主催 第四十七回ごはん・お米とわたし 作文絵画コンクール作文（二部）農林水産大臣賞

▼吉田佳奈さん（南陽市立漆山小学校三年）

〔作文〕 公益社団法人全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催 第六十八回青少年読書感想文コンクール 全国

学校図書館協議会長賞



挨拶 平山英三会長



祝辞 中川勝米沢市長



祝辞 上杉邦憲名誉会長



令和5年度表彰式 受賞者と役員



講演 梅津幸保様

米沢有為会総会文化講演会

開催日 令和五年六月二十五日(日)

会場 伝国の杜 二階 大会議室

講師 梅津幸保氏

(置賜民俗学会前会長・現顧問)

昭和一九(一九四四)年米沢市生まれ。米沢興讓館高校、山形大学工業短期大学部卒業。昭和三十九年米沢市役所に勤務し、企画課長、市立米沢図書館長などを歴任。退職後梓山上組獅子踊りの保存会長、萬世大路保存会長、米沢前田慶次の会長など歴任。著書『草木塔を訪ねる…ふるさとの文化を歩く―米沢から』など多数。令和四年度斎藤茂吉文化賞受賞。

演題 置賜の民俗文化伝承と共に

一 獅子踊りの伝承

今日はこのような発表の機会をお与えいただきありがとうございます。資料に沿ってお話しします。私の郷土の民俗文化との関わりは、地元の梓山獅子踊りの伝承に関わったことから始

まりました。この獅子踊りには上組と下組がありますが、その先祖は、江戸時代に遡ります。一六三四年徳川三代將軍家光が日光東照宮を造営の時、地元文挾部落が獅子踊りを奉納し「天下一関東文挾流」の称号を賜りました。これを流布するため、文鋏大夫が梓山に足を留め伝授したのが、梓山上組獅子踊りの始まりです。

(一) 昭和二十六年九月三十日板谷電化工事完了

その後長く伝承されてきた獅子踊りは、一時途絶えておりましたが、板谷電化工事完了に伴う閉庁式で披露してほしいと、宮坂考古館初代館長・宮坂善助氏から万世村の我妻菊次村長に要請があったのを機に、上組・下組共に昭和二十九年三月再復興しました。

上組は梵天舞十二曲、花吸舞十二曲、鶏徳舞十八曲で計四十二曲。下組は大和舞十五曲、春日舞十七曲、三笠舞十五曲で計四十七曲であり、それぞれ三十分から四十分の踊りです。

◎上組の踊りは曲目を見ると分かる様に活発な踊りで男性的です。獅子頭は男獅子、女獅子、友獅子の一人立ちが三匹で、獅子頭は頭の上にかぶり顔の前には黒透かしの前たれを下げて視野が広く活動的に踊られます。

◎下組は曲目からして、女性的で優雅な踊りです。獅子頭や太鼓役、笛方、唄方、大纏持ちなど多くの配役をそ



ろえて、上組総勢五十人、下組総勢三十人ほどです。獅子踊りの若者衆は踊り場の寺院まで賑やかに行列をします。上下の行列は青田に煌びやかな衣装が映えて見事です。上組は法将寺で八月十六日、下組は松林寺で八月十五日に踊ります。

復興後、好評の梓山獅子踊りは、昭和五十一年まで、市内、県内、県外各地で上組三十回、下組十六回の公演を行なう事ができました。昭和五十年十一月には万世青年団が郷土芸能の部に取り組み、全国青年大会で優秀賞をいただく快挙を成し遂げました。

(二) 無形民俗文化財に指定

このような伝承活動が評価された結果、昭和五十二年一月米沢市無形民俗文化財第一号に指定されました。これを機に梓山獅子踊り保存会を結成しました。そして昭和五十三年七月の梓神社夜祭から梓神社に奉納踊りを毎年上組・下組交代で奉納することとしたのです。上組は平成四年七月の新幹線開通フェスティバルをはじめ、伝承四十周年記念や復興二百年記念事業、下組も万世地区芸術祭や梓神社奉納踊り、復興二百年記念事業踊りなどに取り組んできました。

また、平成四年十二月には山形県無形民俗文化財に指定されました。

(三) 県指定後の主な活動

この後、梓山獅子踊りは県内外や外国に広く知れ渡り、上組も下組も様々な活動の機会を得るようになりました。

例えば、〈上組〉は、平成五年八月再々復興四十年記念踊り(法将寺)、同八年八月復興二百年記念写真集発行、同十五年七月全国史跡整備市町村協議会東北総会(上杉城史苑)、同十六年十月韓国国際仮面舞フェスティバル in 安東市、同二十年三月山形・出羽の民俗芸能公演(東京国立劇場)、同二十九年十一月東北中央自動車道福島―米沢間開通式八幡原インターにて公演しました。また、〈下組〉は、平成十三年十一月山形県民俗芸能フェスティバル in 米沢(伝国の社)、同十九年九月会津獅子舞フェスタ in 喜多方(街中)などで披露しました。

(四) 獅子踊りという民俗芸能の保存伝承について

さて、我が国の民俗芸能の中でも大きな存在である獅子踊りは、昨今少子高齢化の時代に入り、後継者不足で危機に瀕しています。更に、産業構造の変化から、夜勤や三交代勤務などが重なり、地域の若者が一堂に会する機会が薄れています。各地域とも頭を悩ませています。

そうした中、地元の子どもたちにも伝承していこうという声が上がリ、保存会が財団の補助を受けながら担い

手の育成活動に取り組んでいます。例えば、〈子ども獅子踊り①〉として、平成二年八月法将寺で梓山地区の小學生一年～六年に伝承披露が始まりました。また、〈子ども獅子踊り②〉として、万世小学校六年生が平成十七年十一月山形県青少年育成県民大会（米沢伝国の杜）に出演し、平成二十二年十月には山形県交通安全県民大会（米沢伝国の杜）に出演しました。

（五）今年の獅子踊り公演

上組保存会では

① 七月九日（日）

梓神社奉納踊り

（花吸舞、子ども獅子踊り）

② 八月

二十日十四時（法

将寺）、下組保存

会では八月二十七

日（松林寺）に実

施されました。



上組の梵天舞



下組の春日舞

よって伝えられましたが、上杉謙信は「火縄銃は軍用の利器」として紀州根来で製法を学ばせ、上杉景勝、直江兼続も鉄砲を重用しました。一六〇一年景勝が米沢三十万石に移封された後、一六〇四年兼続は近江国友滋賀県長浜市）から吉川惣兵衛、大阪堺から泉屋松右衛門を招聘し、自布で火縄銃一千丁を鍛造させました。

一六一四年十一月大坂冬の陣で上杉軍九千人、鉄砲六百八十挺、大筒五十挺を備えて大活躍し、徳川秀忠から感状と褒美を賜ったそうです。

藩士が藩主の前で訓練の成果を披露する上覧鉄砲が行われ、御馬回り組と五十騎組が先勤争いをしましたが、鷹山十九歳の時争いがあれば上覧はしないとして和解させ、御馬回り組が後番を申し出たので、鷹山は御馬回り組にお礼をして上覧したという逸話があります。

その後、一八六三年上杉藩は京都御所で江戸時代最後の軍事訓練で大活躍し、戊辰戦争では西洋銃と共に火縄銃を使用しました。なお、明治時代以降は川中島合戦模倣戦や甲冑武装行列などに使われました。

（二）砲術隊の活動

昭和三十六年四月、新たな名称を得た米沢藩古式砲術保存会稲富流砲術隊は、国民体育大会秋田大会射撃会場でアトラクションに出場し、以後若手、千葉、青森、栃

二 火縄銃の発砲演武

（一）火縄銃の伝来と上杉家

火縄銃は一五四三年種子島に漂着したポルトガル人に

木、山形、福島で発砲演武を披露しました。

その後も、昭和三十九年の東京オリンピックをはじめ、同四十七年の札幌冬季オリンピックで発砲演武。愛知県新城市長篠のぼり祭りには同四十三年、令和五年まで五十五回連続参加しました。

海外遠征として、平成元年以降フランス・スペイン・ポルトガルのジャパンウィークに参加、日本文化を世界に発信しています。そして、昭和四十年代から令和の現在まで、毎年十、四十回に亘って発砲演武を行ってきました。

(三) 無形文化財指定

こうした精力的な活動が評価され、米沢藩古式砲術保存会は、平成三十年三月十五日、「米沢市指定無形民俗文化財米沢藩上杉砲術」として指定されました。

三 萬世大路の歴史と役割

(一) 歴史経過

江戸時代人馬が板谷峠を越える米沢―福島間の道路は、明治九年十二月初代山形県令三島通庸により、栗子隧道の着工が開始され、同十三年十月貫通、同十四年十月明治天皇東北御巡幸時に合わせて開通式が催されました。同十五年一月、天皇より「萬世大路」の名を賜り、

荷物の輸送に便利な荷馬車が通れる道路となりました（一日に歩行者百十人、小荷駄馬車四十台）。

その後、同三十二年五月、奥羽南線鉄道の福島―米沢間が開通、輸送は鉄道に変わりました。そのため萬世大路が開通して賑わっていた宿場が廃業していきました。

昭和の時代に入ると自動車の普及に伴い、車が通れる道路に大改修しました（昭和八、十二年、一日に一六六、五三五台）が、冬季は積雪のため不通となりました。

昭和三十六年、ルートを変更して国道十三号栗子ハイウェイ建設開始、同四十一年五月に完成しました（一日三千、五千七百台）。冬期間の除雪もできて五十一年間東北、山形の玄関口として活躍してきました。しかし、豪雪や豪雨のため年に数回通行できない事態があったので、大動脈としては不安がありました。そのため新たに相馬市から秋田自動車道へつながる高速道路の整備として、東北中央自動車道が十一年かけて平成二十九年十一月、福島―米沢間が開通しました。八九七mの東北一の超大トンネルを持つ高速道路で、料金は無料です（一日八千台）。

(二) 萬世大路の指定認定

栗子ハイウェイの開通により廃道となった萬世大路は、平成八年文化庁より「歴史の道百選」に選定、同

二十年二月経済産業省より地域活性化に役立つ「近代化産業遺産」に指定、同二十四年十月公益財団法人土木学会より選奨土木遺産に認定され保存会として感謝するとともに、令和二年一月には「未来に伝える山形の宝」（山形県）に登録されました。

四 草木塔建立と普及

（一）草木塔建立の契機

草木塔は、草木供養塔または草木塔と刻まれて建立された石造物のことですが、米沢を中心とする置賜地方特有の民間信仰として注目されています。草木塔調査の先駆者・佐藤忠蔵氏（米沢市）は、昭和二十九年『羽陽文化』第二十九号に置賜の草木塔を九基紹介しています。これに触発され私も調査を開始しました。草木塔建立の契機として、①江戸時代から行われていた薪材伐採と運搬の重労働、②危険な木流し作業、山仕事の集団作業、③自然の恵みへの感謝と命ある樹木の供養・修験者や密教系僧侶が導師④山の神のほかに建立、が考えられます。

（二）草木塔建立の普及（草木塔探訪から）

各地の草木塔を探訪してみると、①個人建立の想い（五左衛門、長助、山口八郎左衛門）や、②集団の建立（村中、講中、地名、導師名・瑞林寺、東原寺）がわかった

り、③建立の場所（路傍、神社境内、寺院境内、墓地内、山林内、学校、公園など）や、④建立日の特定はないが、八月、三月が多いことなどがわかります。

（三）有形民俗文化財の指定

置賜地区を中心に県内外の草木塔は、米沢市をはじめ南陽市、飯豊町、岩手県沢内村、福島県熱塩加納村のように、各市町村から有形民俗文化財に指定されています。こうした中、「米沢市の山との暮らしを伝える遺産群」

草木塔群と木流し」は、令和二年一般社団法人日本森林学会から林業遺産に認定・登録されました。山形県内では初となります。これは草木塔発祥の地置賜地方に特有の民俗信仰としての精神と意義が伝承されるにふさわしい評価をいただいたものであり、私たちは今後とも自然の恵みに感謝し、畏敬と共生を心に、環境の保全を推奨するシンボルとしていきたいと思っています。そして、米沢から全世界に草木塔の心を伝えていきたいと思っています。ご理解ありがとうございます。

（写真は江戸時代最大で嘉永七年十月二日建立、二二五cm）



梓山一の沢の草木塔

◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

新型コロナウイルスが令和五年五月に五類に移行したのに伴い、定時総会を四年ぶりに対面式で開催しました。多くの会議も対面式に戻りましたが、一方遠隔地を結ぶ理事会等の会議は時間的、経済的利点から従来のリモート形式を踏襲しています。

定時総会開催

第十（通算一三六）回定時総会は、令和五年六月二十五日（日）米沢市の伝国の杜大会議室で開催されました。総会後直ちに、新理事・監事による第二回理事会を開催し、新たに平山英三理事を会長に選出しました。総会の議事等は前述のとおりです。

理事会開催

令和四年度は理事・監事が出席し八回の理事会が開催されました。また令和五年度は十月末現在で四回開催されています。令和四年度理事会の議題は令和五年六月発行の米沢有為会会報第二十一号（全会員に郵送済み）を

ご覧ください。

諮問委員会報告

諮問委員さらに名誉会長・名誉会員・相談役各位に対し、「最近の活動状況」報告（会報に提示）を送付し、五月十五日までに、昨年同様、書面や電子メールで意見ご指摘をいただきました。

ご意見ご指摘は、整理すると以下の通りです。

・執行部の全般的活動を評価する（五件）
・長期的な変化を踏まえた若者支援事業の再検討を（三件）

・「当会の活動の広報」、「会員・役員の若返りを」、「学生寮・奨学生OB・OG会の活性化、入会促進を」など会員増強に関して（十三件）

・「育英事業への資金配分を優先」、「学生寮入寮者減少に対する提案」など育英事業に関して（十三件）

・我妻榮記念館、文化大学、小論文コンテストに関して（五件）

・会計業務、ICT（情報通信技術）活用に関して（三件）

今後の執行部活動に活かしてまいります。

事務局・財務体制強化

事務局業務体制の強化については令和二年度から取り組んでいますが、令和五年度にはほぼ完了し、理事二名（一名は総務部長兼務）、参事三名の体制になりました。参事はそれぞれ奨学金・返済業務、会員名簿管理業務及び会計・一般事務業務の実務を担当しています。

財務体制については、財務担当理事一名の配下に外部の会計事務所を付けて財務処理を行ってきましたが、令和五年六月に当該理事が退任したため、東京支部正会員の中から新たに公募しました。しかし、応募がありませんでしたので、応急措置として総務部長が財務担当理事を兼務しています。今後適任の方に財務担当理事を引き受けていただける様に手を尽くす所存です。

○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集について、地元高校の保護者・生徒への説明は、五月中旬から七月中旬に米沢興譲館高、米沢東高、長井高と九里学園高校を対象として、学校の保護者向け進路説明会の中に若干の時間をいただき実施しま

した。また、育英事業の募集要項概要を記載した「米沢有為会だより号外十四号」のパンフレット（カラー版）を作成し、説明会で活用するとともに、その他の高校には送付して広報に努めました。

令和五年度採用の奨学金貸与生は、「奨学生だより」に掲載し、学生寮入寮生選考結果は別表１のとおりです。

奨学金貸与生選考の報告と課題

奨学金制度の質的向上を目指し、創立百三十周年活動ビジョンに掲げた新奨学金制度を、令和二年四月採用の奨学金募集から実施し、令和五年採用の募集は四年目となりました。その新制度の要点は、男女共同活躍社会の実現を後押しするために貸費型の「女子向け住宅費補助奨学金」（Ⅰ型）、学業を終え郷土に就職して郷土置賜を担う人材の育成を目指す減免型の「地元若者定着奨学金」（Ⅱ型）、そして従来の貸費型の「一般貸費奨学金」（Ⅲ型）の三つのタイプで、より充実した奨学金制度で育英事業を進めております。

来年度に向けた応募状況ですが、定員六名に対し応募者はなく、十一月四日置賜総合文化センターでの教育委員による面接の中止、さらには十一月十八日に開催の本

部理事会審議も報告のようになりました。応募者数については令和四年一名、昨年は二名と近年は少なく経緯してきましたが、その傾向は好転することなく、本事業が活用されないことについては非常に残念な結果となっております。同時にこのことを受けて、本会の奨学金制度の基本的構造としては、引き続き貸与と返還が一体で循環するものでありますが、国の奨学金制度等の奨学金制度と比べて優位性が見られるような魅力ある制度設計が期待されることであり、早急に対応策を構築してゆきたいと考えております。

なお、これまで課題となってきた奨学生への返済金滞納については、該当者と密に連絡を保ちながら返還計画とともに考えるなどの手立てを講じ、総じて順調な返還が進められております。ただ、その中の一名が法的な措置による対応を余儀なくされておりましたが、今年度になり、ようやく結審しまして、返還作業に着手したところ です。

学生寮入寮生選考の報告と課題

今年度の募集定員は東京興譲館寮が十三名程度（通常募集十名程度、予約募集二名程度）、仙台興譲館が十名

程度（通常募集六名程度、予約募集四名程度）を予定しました。また、新型コロナウイルス感染防止のため、ネット環境のある入寮希望者には自宅でのオンライン面接も実施し、東京興譲館寮に二名、仙台興譲館寮に二名の応募があり、全員選考しました。両寮とも多数募集しましたが、残念ながら入寮希望者が少なく、東京も仙台も大幅に定員を割っております。五月二十九日現在、東京は一年生〇名の十五名（定員二十四名）、仙台は七名（定員十五名）の寮生数であり、寮運営上大きな課題となっております。具体的には、両寮の運営費として本部会計から支援金を繰り入れ、なんとか運営をしている状況下にあります。この状況を打開するためには寮費の値上げが必要であるとして、育英事業部が中心になり、三回の寮問題対策会議を開催し、五月二十九日に基本方針を決定しました。具体的には、来年度から寮費を両寮共に六万五千円とすることになりました。また、寮生募集への新たな手立てとして、これまでの対応に加えて、両寮を紹介する動画を作成しました。その動画が十月末に完成し、本会ホームページや寮生募集ポスター等から容易に見ることが出来るようになりました（下記にQRコードを添付しましたので、ご利用ください）。

また、女子学生の修学環境を整備するために、懸案であります東京興譲館に女子受け入れを進める事業については、今後の寮運営の方向性や仙台寮の冷暖房装置の設置などの課題と併せて、寮問題対策会議パートⅡを新たに設置して検討を進めております。

さらに、施設の整備については、創立百三十年記念事業として、ほぼ十年ぶりとなる学生寮の大規模改修に段階的に取り組んでいます。令和元年度に仙台興譲館寮の改修工事が終了、令和二年度は九月に新寮母が着任し、トイレの改修や不具合箇所の改修を行い、令和三年度は不具合の排水管や洋式トイレへの交換などの工事を進めました。さらに令和五年度、不具合が見つかった排水管のさらなる工事を進めます。東京興譲館寮は令和二年度に寮室窓サッシ取り付けや外壁タイル落下防止などの第二段階工事を終了しました。令和三年度は、居室のリフォーム工事と床下の遮音対策、厨房工事、給水工事（給水タンクを廃止し、直接排水方式に切替）等を行っています。

両寮とも多年度にわたる改修工事によって、勉学環境を一層向上させ、安全・安心の施設環境となりました。

来年度の募集要項の概要

令和六年四月採用の奨学生及び寮生募集要項の概要は、別紙2のとおりです。有為会会員の皆様には、心当たりの学生さんがおられましたら、是非勧誘・推薦していただければと存じます。

動画のQRコード



東京興譲館寮動画



仙台興譲館寮動画



(別表1) 令和五年四月採用 奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生：「奨学生だより」(二十九ページ)に掲載

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出身高校・大学	出身地
1	原 田 悠 希	明治大学政治経済学部経済学科	4 年	山 形 東 高 校	山形市
2	齋 藤 洸 祐	日本大学理工学部電気工学科	2 年	米 沢 興 讓 館 高 校	米沢市

② 仙台興讓館

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出身高校	出身地
1	大 橋 陽	東北大学理学部数学科	1 年	米 沢 興 讓 館 高 校	米沢市
2	渡 部 勇 真	東北大学経済学部	1 年	長 井 興 高 校	長井市

(別表2) 令和六年四月採用の育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ

(<http://www.yonezawa-yuikai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生募集要項

当会の奨学金(無利子)は以下の通り三種類あります。

種 類	名 称	募集対象者	定員	貸費額等
I 型 (貸 費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2名	月2万円貸費
II 型 (減 免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III 型 (貸 費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費
応 募 資 格	置賜地方3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者 (1) 令和6年4月の大学・大学院入学予定者または在学生 (2) 健康かつ学業優秀で将来性のある者 (3) 経済的理由により就学が困難である者			
奨 学 金 の 返 還	貸費終了翌年度より、I型及びII型においては月額1万円を、III型においては月額1万5千円を本会に返還する。			

面接選考日・場所	令和5年11月4日（土） 午後1時 置賜総合文化センター（米沢市金池3-1-14）
採用候補者及び 決定通知	令和5年11月に採用候補者を決定し、また、その内の大学又は大学院合格者をもって3月までの理事会で正式に決定し、応募者に通知する。

2. 学生寮入寮生の募集要項

応募者は大学等に合格する前に予約を内定する者（予約募集）と大学等に合格後に決定する者（通常募集）とする。

寮名	所在地	応募資格	募集人員
東京興譲館	東京都調布市入間町1-36 （新宿駅より約35分）	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ） 以下の条件のいずれかを満たす者 （1）置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 （2）有為会会員1名以上の推薦を受けた者 合格発表前の応募可	15名程度
仙台興譲館	仙台市青葉区角五郎2-6-21 （中心市街地まで約3km）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ）	10名程度

寮 費（月 額）	65,000円…朝夕2食付き（ただし土曜・日曜、祝日を除く）、光熱費・水道代等を含む。
面 接 日・場 所	△随時選考▽ 令和5年11月1日から令和6年2月29日まで。その都度オンライン面接を行う。 △期日指定選考▽ 令和6年3月11日、3月24日にオンライン面接を行う。
面 接 方 法	オンライン（Zoom）による面接を行う。



○地域振興部

年次計画に沿って事業活動を行いました。

まず表彰については、教育文化功労者として梅津幸保氏、産業功労者として増村力氏の二名です。梅津幸保氏は郷土史並びに社会教育等の分野において特に優れた功績があり、地域活性化等に寄与されました。増村氏は米沢商工会議所の会頭等の役員を長く務められ地域産業経済の振興発展に指導的役割を果たされました。

特別顕彰者については、スポーツ活動の優秀賞は一名、奨励賞は三名、また、文化活動の奨励賞は二名、計六名に対し表彰が行われました。内容は当誌の本部活動の中で詳しく紹介しております。

また、高等学校卒業生表彰は置賜地区内の高等学校十三校から特に優れた卒業生、各校一名の推薦を受けて表彰しました。表彰については、米沢支部教育部長が各高等学校を訪問し校長に表彰状の伝達をお願いして実施しました。

令和四年度高等学校卒業生表彰

(令和五年二・三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。受賞

者は次の通りです。

片倉叶多郎	米沢興譲館高等学校	(川西町)
梅津優希菜	米沢商業高等学校	(米沢市)
齋藤未来	米沢工業高等学校	(川西町)
相田琴愛	米沢東高等学校	(高島町)
菅原愛樹	米沢中央高等学校	(長井市)
紺野稜真	九里学園高等学校	(白鷹町)
神保拓真	南陽高等学校	(山形市)
竹田澤	長井高等学校	(白鷹町)
菊地花音	長井工業高等学校	(長井市)
安部尋	置賜農業高等学校	(長井市)
佐藤佳凜	高島高等学校	(米沢市)
松田久恵	荒砥高等学校	(白鷹町)
和田彩日香	小国高等学校	(小国町)

第六回小論文コンテスト

次に、第六回小論文コンテストは、例年どおり置賜地区の高校二年生を対象として、「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」をテーマに実施しました。例年に並ぶ総数八十五名の応募がありました。その中から慎重な審査を

経て、最優秀賞一名、優秀賞四名、入選五名の計十名を表彰しました。併せて、『優秀小論文集』を発行し、各高校や関係団体等へ配付しました。受賞者は次のとおりです。

最優秀賞

小国高等学校

飯田 晴基

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

米沢中央高等学校

遠藤 結依

米沢商工会議所会頭賞

米沢中央高等学校

長南 穂実

長井商工会議所会頭賞

長井高等学校

佐藤 三咲

米沢信用金庫理事長賞

長井高等学校

鈴木 心美

入選

米沢中央高等学校

鈴木 花樹

高畠高等学校

木村 吏希

小国高等学校

澤田 旭

米沢興譲館高等学校

加藤 碧人

米沢中央高等学校

小林 美桜

○文化広報部

『米沢有為会々誌』第七十三号の発行

四年ぶりとなる定時総会の米沢開催に伴って、文化講演会も再開され、講師の梅津幸保氏（前置賜民俗学会会長・現顧問）より、「置賜の民俗文化伝承と共に」と題して、万世地区梓山の獅子踊りや火縄銃の発砲演舞、萬世大路の歴史と役割などについて詳しくお話いただき、その要旨を掲載しました。

また、文化大学は今年さらに三回オンラインで開催され、講師の猪野修治氏、菊地隆雄氏、矢尾板操氏から講演要旨をご寄稿いただきました。特に、矢尾板氏（我妻榮記念館館長）の講演は、十月二十一日（土）の我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業を前に、八月二十三日（水）大変時宜を得たものとなりました。なお、この記念事業に際して、実行委員会は全国から協賛金を募りましたので、本会創立百三十周年記念事業時と同じように、「協賛金応募者ご芳名」を作成し「お礼」を添えて本誌に掲載しました。

第六回高校生小論文コンテスト『優秀小論文集』の発行

第六回目となる置賜地区高校生小論文コンテスト（地

域振興部担当」は、「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」と昨年度と同じテーマで、地区内の高校二年生を対象に募集しました。七校から八十五点の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点が選ばれ、この十点を『優秀小論文集』にまとめ発行しました。十月二十八日（土）ホテルモントビユー米沢で行われた表彰式で受賞者や出席者に配布し、後日学校や関係者に送付しました。

なお、本誌には最優秀賞と優秀賞の他、平山英三審査委員長の「審査講評」や表彰式の様子、募集要項などの資料が掲載されています。

ホームページの更新

本会のホームページ（HP）には、新たに令和六年四月採用の学生寮紹介と寮生及び奨学生募集、同じく「米沢有為会だより号外第十四号」、米沢市名誉市民我妻榮氏に関わる記念事業などが追加されています。このようにHPは今年度も須貝利喜夫理事と山形県立米沢工業高等学校専攻科との連携協力の下、逐次更新され本会の様々な活動が蓄積されていますので、ぜひご覧ください。

管内高等学校校章



県立米沢興譲館
高等学校



県立米沢東
高等学校



県立米沢工業
高等学校



県立米沢商業
高等学校



県立置賜農業
高等学校



県立南陽
高等学校



県立高畠
高等学校



県立長井
高等学校



県立長井工業
高等学校



県立荒砥
高等学校



県立小国
高等学校



基督教独立学園
高等学校



学校法人九里
学園高等学校



学校法人米沢
中央高等学校

AIの可能性と生成AI

昨年は、AI（人工知能）の活用が改めて注目された一年でした。各種資料を参考にして調べてみますと一九五六年が人工知能を研究した始まりとされています。この年は筆者が生まれた年であり、六七年も前から研究が始まっていたことは大きな驚きでした。現在では、自動運転や渋滞予測、教育・研究支援、画像解析、製造業の品質管理や商品開発など広範囲に利用されていることは周知のとおりです。

私がAI技術を活用してやってみたいことがあります。それは白黒写真をカラー写真に蘇らせることです。AIが学習したデータを元に白黒写真を解析して人や風景などを認識し当時の雰囲気を再現するかのような自然な色彩に仕上がるという技術です。子供の頃に撮った白黒写真がどう変換出来るのか楽しみです。

さて、今年の流行語大賞候補にも選ばれた「チャットGPT」ですが、生成AIの利用方法が議論された年でもありました。二二年一月に公開された「チャットGPT」は、僅か二か月で全世界のアクティブユーザーが一億人を突破、以降はメディアにおいて連日のように関連す

るニュースが報じられています。私もマイクロソフトのウェブ検索サイト「Bing」を利用しています。生成AIは、入力した言葉に対して確率的にありそうな続きをアウトプットしているに過ぎないといえます。あくまで参考に止めるようにしています。情報処理やコンテンツの生成に向いているため、指定したデータや条件から文章やアイデアを生み出したり、入力した長文を要約したりといった作業が得意です。私も早くマスターして情報収集や文書作成を効率化したいと考えています。

対話型AIを上手に使うには、どのように問いかけるかは重要になります。例えば「この商品はどんな時便利ですか」などと質問したい情報を具体的に入力し、さらに回答方法も具体的に示すことで「役に立つ回答」に近づくことに繋がります。また、一問一答で終わらせずに何回か聞き直すのは有効と思われます。

現在の生成AIは、最新情報に対応出来ておらず、かつ誤った回答が返ってくることもあるのも事実です。偽りの情報、著作権や肖像権の問題もクリアになっておらず、便利さ故の不便さが共存しているようです。生成された文章や画像はそのまま使用せず、内容をしつかりチェックし自己責任の下で活用したいと思います。（須）

奨学生だより

一、今年度の新奨学生

次の学生が今年度の新奨学生に選ばれました。

Ⅲ型 紺野 稜真（九里学園高等学校）

筑波大学 体育専門学群

Ⅲ型 齋藤はなみ（山形県立米沢商業高等学校）

山梨学院大学 経営学部

いずれもスポーツの分野で目覚ましい成績を上げている学生で、紺野稜真さんは陸上競技（ハードル）、齋藤はなみさんはホッケーで次世代のホープと見なされている。

このところ奨学金を取り巻く状況も様変わりを見せ始めている。貸与した奨学金は本人が働いて返済すべきものと見なされてきたが、最近、一部ではあるが、会社によつては社員の奨学金を肩代わりして返済するところが出始めている。当会のような限られた資金の奨学金制度においては、こうした世の動きを注視しながら、もっとも有効な制度にして行くことが望まれる。次に掲載するのは貸与開始と返済開始の奨学生の思いである。

「私の志」

（貸与開始奨学生） 紺野 稜真

私は中学生の頃からずっと陸上をしています。目標は、オリンピックや世界陸上などの世界レベルの大会に出場することです。

そのためには、なんとしてでも筑波大学に行く必要があると考えました。なぜなら、筑波大学には自分の専門種目であるハードルをする上で素晴らしい指導者がいるからです。また、筑波大学の陸上部はレベルが高く、日頃からお互いに競い合いながら練習に取り組めると思いました。以上のことから総合して考えて、筑波大学は私が陸上を続けてゆく上で、もっとも整った良い環境であると思いました。

筑波大学進学へ向け、貴法人のサポートを受け、夢を実現するための努力をしたいと思います。

また、これからはより自己管理を徹底し、小さな努力の積み重ねを大事にしていきます。そして、多くの方からいつまでも応援してもらえようような山形県を代表する選手を目指して頑張っていきたいと思っています。

「私の志」

（貸与開始奨学生） 齋 藤 はなみ

私はホッケー日本代表になるという目標を達成することと文武両道を目指し、山梨学院大学への進学を希望しています。

山梨学院大学ホッケー部は大学日本一常連の強豪チームです。試合に出られるのはたったの十一人。そのため、日々の練習は常に試合を意識して一回一回質の高い練習ができるようにしたいと思っています。また、山梨学院大学には国内でもトップクラスのアスリートがたくさんいます。競技の枠を超えて、切磋琢磨しながら自分の人間性も高めていきます。

もちろん、学業の面にも力を入れています。私は経営学部に進学する予定です。商業高校で合格した検定を活かし、それをビジネスの場面で活用できるレベルまで学びを深めたいのです。また、学部の授業では発表スキルを高めたり、留学生と共に学んだりする機会も多くありそうです。コミュニケーション能力や語学力も伸ばし、自分の将来に活かしたいと考えています。

「大学生活を振り返って」

（返済開始奨学生） 紺 野 雄 大

高校を卒業後、私は医学部に進学しました。医学は、基礎医学と臨床医学という二つの分野で構成されますが、基礎医学の面白さに魅了された私は、基礎医学の研究室に通うようになりました。大学二年生時の頃から研究を続けていましたが、五年生の冬に転機となる出来事が訪れました。世界中から一流の研究者が集まる研究機関での、一年間の研究留学の機会を頂いたのです。私は両親と相談の上、一年間大学を休学し、研究に臨む決断をしました。留学にかかる費用などの経済的な不安もある中で、その決断ができたのは、貴団体からの奨学金という支えがあったからです。そうして臨んだ研究の日々は、言葉では表現できないほど刺激的で、そこで得た経験・人脈・考え方は、かけがえのない宝物となりました。現在は、医師として日々の診療にあたりながら、基礎研究にも従事しています。学部時代の経験があったからこそ今の自分がある、奨学金をお借りして良かったと、心から思っています。

支部だより

東京支部

令和五年度の東京支部の活動状況を報告します。

① 二月五日（日）理事会

② 二月二十五日（土）理事会
今期決算及び来期予算準備、役員選考について

③ 四月九日（日）理事会
令和五年度支部予算案を本部提出
定期総会について、新役員選考

④ 五月十四日（日）定期総会提出資料の確認他
定期総会資料及び会報の発送（会

⑤ 六月十日（土）定期総会資料及び会報の発送（会
員に対して）

⑥ 六月十七日（土）令和五年度定期総会
講演会、新人寮生及び新奨学生歓迎会

⑦ 十一月十一日（土）園遊会開催
懇親会（四谷・主婦会館プラザF）

四谷・主婦会館プラザ

令和五年六月二十五日（日）米沢の「伝国の杜」で開催された米沢有為会の定時総会において、東京支部長として私が正式に承認された。そこでご挨拶代わりに私の考えを記すことにしたい。

第一に、米沢有為会の支柱である育英事業の維持を図ることである。この三年にわたる新型コロナウイルスによって、有為会が運営する東京と仙台の学寮は入寮生の減少に見舞われている。大学の授業がようやく平常化しつつある今日、様々な改革を加えて寮経営の安定化を図りたいと考えている。もし寮の存続が難しいような事態になれば、有為会自体の存在意義についても問われかねないため、この問題は極めて深刻かつ重要である。この問題の解決のためには、従来の寮運営を抜本的に見直す必要があると考えている。

第二には、現行の『米沢有為会会員名簿』の改定である。今の名簿には、氏名、住所、電話番号しか記載されておらず、会員の略歴、趣味などの記載がない。これでは有為会の活性化には甚だ不十分である。

第三には、文化講演会および文化事業の発展である。具体的には、文化講演会における優れたものを活字化して後世に残すことである。

工藤美知尋 記

米沢支部

令和五年度米沢支部の上半期活動状況を報告いたします。

○三月三十日（木） 第一回副支部長会議

我妻榮記念館にて開催。新年度の米沢支部役員体制、米沢支部総会、我妻榮没後五十周年等記念事業などについて打ち合わせをしました。

○四月十九日（水） 教育文化・産業功労者選考会議

米沢市役所会議室にて開催。該当者を選考し、併せて賞状原文作成を分担し依頼しました。

○五月八日（月） 米沢支部監査

米沢市役所会議室にて実施。令和四年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査しました。

○五月九日（火） 第二回副支部長会議

我妻榮記念館にて開催。支部理事会議案について打

ち合わせをしました。

○五月十六日（火） 第一回理事会

米沢市役所庁議室にて開催。令和四年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する庶務、事業報告、決算報告、事業計画（案）、予算（案）を了承。

また、令和五年度事業計画（案）及び予算（案）を支部総会に提案することに決定。さらには令和五年度表彰者について教育文化・産業功労賞表彰の選考結果を報告し、本部へ提案することで了承を得ました。

○六月二十日（火） 我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業実行委員会 第一回事務局会

我妻榮記念館にて開催。当該記念事業について、スケジュールやプロジェクトチームの進行状況確認、予算見積・執行状況、寄附金の状況等について協議しました。

なお、会議は、当日を第一回目として、第二回目八月七日（月）、第三回目八月二十九日（火）と開催しております。

また、十月四日（水）には、記念事業実施前の最終打合せ（拡大実行委員会）を開催し、十月二十一日（土）の式典当日の内容を確認しました。

○六月二十五日（日） 本部総会、米沢支部総会、第二回支部理事会、懇親会

伝国の杜大会議室にて開催。支部総会は、中川勝支部長挨拶の後、議事に入りました。令和四年度支部庶務・事業報告及び決算が承認され、また、令和五年度事業計画（案）、我妻榮記念館に関する議案を審議し承認されました。

人事案件について支部長、副支部長の互選及び常務理事の選任について承認され、その後臨時理事会を開催し、令和五年度及び六年度の役員が決定されました。その後会場を上杉伯爵邸に移し、懇親会を開催致しました。

○六月二十五日（日） 令和五年度教育文化功労者等表彰伝国の杜大会議室にて開催。今年度は、本部総会も同日開催されたことから、平山会長から教育文化功労者、産業功労者及び特別顕彰者に授与されました。

○九月七日（木）『故郷を愛した民法学者我妻榮先生』配布
六郷小学校にて、小学五年生に向け同冊子を配布しました。

○九月八日（金） 令和五年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会①

市役所会議室にて開催。応募状況の報告、審査の進め方、審査要綱等を確認し、審査の分担を決定しました。

○九月十三日（水） 令和五年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会②

市役所にて開催。一回目の審査について情報交換し、二回目の審査分担を決定しました。

○九月十九日（火） 令和五年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会③

市役所会議室にて開催。審査のまとめ、審査の感想、意見等を交換しました。

○九月二十日（水） 我妻榮特別展（会期十一月二十二日まで）

我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業の一つとして開催しました。市立米沢図書館では先人顕彰コーナーにおいて興譲小学校・米沢中学校（現山形県立米沢興譲館高等学校）時代の足跡等から郷里への思いや業績を、我妻榮記念館では生家と収蔵品の数々及びこのたび御寄贈いただいた「本田吉馬宛我妻榮書簡」のレプリカ等をそれぞれ展示しました。

○九月二十五日（月）令和五年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会④

文化センターにて開催。審査結果のまとめ、各賞の確認・決定を行い、審査の感想・意見等を交換し、今後の取り組みを協議しました。

○十月十日（火）我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業 最終打合せ（拡大実行委員会）

文化センターにて開催。十月二十一日（土）の「記念式典」、「記念講演」、「パネルディスカッション」、「偲ぶ夕べ」について各事業の主な担い手となる実行委員のメンバー及び有為会米沢支部役員等で最終的な打ち合わせを行いました。

○十月二十一日（土）我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業

我妻榮記念館前では、午前中実行委員や我妻榮先生の縁故者御出席の下、記念館前に設置された先生の銅像の建立除幕式を行いました。

伝国の杜においては、午前中無料の記念法律相談会を行い、午後は同ホールで記念式典及び新堂幸司氏の記念講演を開催しました。引き続き、矢尾板我妻榮記念館館長をコーディネーターに、新堂幸司氏、我妻学氏、柿崎聡太氏をパネリストとして迎えパネルディスカッションを行いました。

その後、会場を上杉伯爵邸に移し、我妻榮先生を偲ぶ夕べを開催致しました。

○十月二十八日（土）令和五年度置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」第六回小論文コンテスト表彰式

ホテルモントビュール米沢にて開催。今年度は八十五名の応募があり、最優秀賞始め十名の受賞者に平山英三会長から賞状等が授与されました。

菅野 智幸 記

仙台支部

総会の開催

六月二十四日（土）に支部総会・講演会をスマイルホテル仙台において開催しました。

支部長は甲國信氏から鈴木修治氏に代わりました。甲前支部長米沢有為会活動、取分け仙台支部運営に対してご尽力頂きまして誠にありがとうございました。今後ともご支援よろしく願います。

議題

- 一、令和四年度事業報告並びに決算報告と監査報告
- 二、令和五年度事業計画案並びに予算案
- 三、令和五年度仙台支部役員選任

以上の議案について審議の結果、原案が承認されました。新年度事業計画については新型コロナウイルス流行以前の年間事業と同様の事業を実施することになりましたが、懸案事項とされていきました寮のトイレ改修に関して速やかに実施されるべきとの意見が出され、検討を急ぐことになりました。

支部役員選任では支部理事を長年務められた安部金之

亟氏及び鈴木良平氏が退任されました。長年に亘り有為会活動にご尽力賜りました。厚く感謝申し上げます。
講演会

講師 東北植物研究会会長 上野勇規氏

演題 牧野富太郎と米沢出身植物学者小泉源一の業績
二人の関係やら植物の新たな命名由来等から富太郎の人間味の一端が感じられて興味深く拝聴致しました。
交流会

夏の交流会

八月五日（土）仙台七夕前夜祭の花火大会の鑑賞会を仙台興譲館寮の屋上において行いました。打ち上げられる花火を見ながら楽しく歓談しました。

秋の交流会

十月十四日（土）に寮近くの広瀬川にかかる牛越橋近くの河川敷広場において芋煮会を行いました。青空の下美味しい芋煮を食べながら暫し談笑しました。

仙台興譲館寮の近況

四月に新たに二名の入寮生を迎え、七名の寮生で新年度が始まりましたが、九月に一名が就職の予定から退寮しましたので、現在は六名が在室しています。

寮母さんが変わってからも、以前と同様に寮生のため限

りある予算で栄養のバランスに配慮された食事を提供して頂いています。

仙台興讓館寮の改修工事

一、一階と二階のトイレを和式から様式に交換すると同時に、古くなり漏水が見られるトイレの配管を交換する。

二、厨房の古く使用に難いガスレンジ台の交換取り付け。

三、厨房にある換気扇交換取り付け。

以上の三点について、支部総会でも早急な対応が求める意見を踏まえて、支部役員の加川理事と滝口館長中心に検討頂き改修案をまとめて頂きました。それに基づいて、九月の東京本部の理事会において改修工事及び改修費用について審議をして頂き、了承されましたので十月中旬に発注を行い工事を始めることが出来ました。改修工事は十月末に終了いたしました。厨房の台とトイレともに新しくなり使用し易くなったと思います。

仙台支部だよりの発行

年二回、春と秋にそれぞれ発行しています。有為会の近況、仙台興讓館寮生の状況や支部会員の近況報告、その他滝口館長から植物に関する記事を載せて頂いたりしています。

会員の異動

現在の会員数は八十三名となっています。賛助会員と正会員が八十二名で、法人会員が一社です。会員の方々の高齢化が進んでいますが、今後更にこの傾向が強まるものと思われます。か
ますことか
ら、会の活性化には若い会員の増加が望まれるところ
です。

鈴木修治 記



秋の交流会（10月14日）

北海道支部

三年余り全世界を震わせたコロナ渦もようやく収まりをみせてきました。我々北海道支部でも四年ぶりに皆で集まろうという事になり、七月十六日、盛夏の候、札幌駅の居酒屋にて会員八名、事務局女性二名、合わせて十名で懇親会を開催いたしました。

須藤理事も遠く帯広より参加され、久しぶりに楽しく親交を確かめ合う事ができました。二次会もビアガーデンにて盛り上がり、心配された今後の活動についても再開する方向で賛同される事になりました。年度内には総会と懇親会を行う事とし、現在、丹野理事を中心に計画しております。

有為会の秋といえば、郷土の味「いも煮会」ですね。長らく有為会主催で行われてきましたが、人数が少なくなり鶴城交流会と共同で開催してきたものの、お互いの会員の高齢化で五年ほど前から中止となっております。

今年も山形県人会の「いも煮会」が十月一日、約二〇〇名が集まりアサヒビール園にて行われ参加して参りましたが、やはり置賜の味とは異なる感じがいたしました。

した。

いろいろな事情で炊事をするにも行事困難になっておりますが、何とか有為会にて再開できないかと考えております。

県人会も高齢化による会員減少等問題が多いのですが、我々有為会も同様で、やはり一番の懸案事項です。



有為会懇親会 7月16日

《北海道支部会員・丹野久氏の活躍紹介》

北海道支部会員の丹野久氏が、北海道農業の発展に大きな貢献をしてこられました。ここでは氏のプロフィールと論文を紹介します。

【プロフィール】

丹野久 米沢有為会北海道支部 理事

一九五七年 川西町出身

一九七五年 米沢興、譲館高等学校卒業

一九七九年 北海道大学農学部卒業

一九八二年 北海道大学大学院農学研究科中退

一九八二年 北海道立農業試験場就職

一九九三年 農水省と中国雲南省との「稲の遺伝資源

利用に関する日中共同研究」により中国

雲南省に海外出張（約二年間）

二〇〇九年 北海道代表品種「ゆめぴりか」育成開発

メンバー

二〇一七年 北海道立総合研究機構農業試験場定年退

職

二〇一九年 中日稲米産業科技研討会（中国吉林省）

にて講演。

【論文】



るち米における外觀品質の向上」(二〇二〇年)

論文「日本の寒地、北海道におけるもち米および二〇三

〇年代での水稻生

育への影響予測」

(二〇二二年)

田村邦夫 記



二〇一九年、

二〇二二年発行

の中国専門誌

『糧油食品科技』

に論文が掲載さ

れる。同時に

表紙も飾る。

論文「日本の寒

地、北海道のう

興讓館寮だより

東京興讓館

伊 藤 翔 大

日頃より東京興讓館寮の運営と我々学生の生活に多大なるご支援をいただいておりますこと誠に感謝申し上げます。十月現在、寮には十二名の学生が在籍しており、それぞれが目標に向かって励んでおります。東京興讓館の近況について簡単ではありますが、ご報告させていただきます。

まず今年度は新型コロナウイルスの社会生活への影響がかなり小さくなり、コロナ禍以前の生活に戻りつつあります。寮生も大半は対面形式の授業に戻り、課外活動も通常のように行い、これまで我慢を重ねてきた頃に比べるとはるかに満足できる学生生活を送ることができています。

数人が新型コロナやインフルエンザに罹患してしまいました。館長や寮母さんの手厚いご支援のおかげで感染拡大を抑えることができました。この場をお借りして

お礼申し上げます。落ち着きを取り戻しつつある日常ではありませんが、変化の激しい社会でありますのでこのコロナ禍で学んだ危機管理を忘れずに生活していきたいところでもあります。

*

今年度は二名の新しい寮生を迎えました。同郷の後輩を新たに受け入れ、上京した頃の期待と不安が入り混じった自分に重ね合わせると同時に、先輩としてそして寮長として、彼らをさまざまな面からサポートすることの責任を感じた次第です。しかし、依然寮生は少ないままであり今後の寮生の減少が深刻な問題であります。寮に在籍している学生のうち四年生にあたる寮生が最も多く、卒業に伴い退寮されると寮生はかなり少なくなることを考えられます。今ですら寮の運営は厳しいところですが、今後は深刻な財政状況になってしまいます。食事会などの寮のイベントが開催できなくなることも考えられ、不安を感じます。

有為会の皆様には新しい寮生の獲得にご尽力いただき大変ありがたく思います。我々寮生からも電気や水道の節約など、寮の財政状況改善のためにできる限りのことをやってゆく所存です。

最後になりますが、寮生十二名の紹介をもって結びとさせていただきます。短い学生生活ではありますが、寮生一同志、高く邁進してまいりますので、今後とも見守っていただきたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

【大学院生】

後藤 洵 (東京工業大学修士課程一年)
(山形東高校) 山形市出身

(以下は十月三十一日現在の在寮者)

【三年生】

大西ひかる (明治大学理工学部)

我妻 恵多 (米沢興譲館高校) 米沢市出身
(東京都立大学理学部)

(高畠高校) 高畠町出身

伊藤 翔大 (一橋大学社会学部)
(長井高校) 川西町出身

【二年生】

武田 一晟 (國學院大學経済学部)

見保 駿作 (東北学院高校) 仙台市出身
(電気通信大学情報理工学部)

齋藤 洸祐 (米沢興譲館高校) 米沢市出身
(日本大学理工学部)
(米沢興譲館高校) 米沢市出身

【四年生】

金田 凌 (杏林大学医学部)

鈴木龍太郎 (長井高校) 長井市出身
(東京農工大学工学部)

高橋 勇輝 (米沢興譲館高校) 長井市出身
(東京大学工学部)

二宮 渉 (米沢興譲館高校) 米沢市出身
(電気通信大学情報理工学部)

原田 悠希 (米沢興譲館高校) 米沢市出身
(明治大学政治経済学部)
(山形東高校) 山形市出身





寮の食事風景



東京興譲館寮生

仙台興讓館

日 下 和 也

猛暑が続いた夏も過去のものとなり、朝晩めっきり冷え込んで秋が深まっていることを感じるこの頃ではありますが、寮の運営や私達寮生への支援をして下さる有為会の皆様はこの場を借りて感謝申し上げます、仙台興讓館寮における近況報告をさせていただきます。

寮生の人数としては三名が退寮し、四月に新しく寮生が二名入寮して、現在六名となっております。前年度からさらに一人減り、資金面や掃除当番の割り振りで苦労したり、寮母さんに迷惑をおかけしてしまっているのが現状であり、来年度は多くの新寮生が入ってもらえるようお願いしています。願っていることとの繋がりになりますが、今年寮を探している学生により目に留まってもらえるように、YouTubeに投稿されている仙台興讓館寮PR動画を新しく作成していただきました。外部へ委託してくださり本格的な撮影をしていただいたこともあり、本格的でより寮の魅力が伝わるものになっていて、今回制作のために尽力してくださった皆様にはいくら

感謝してもしきれません。この動画の効果により、来年はより多くの入寮生が来てくれることを期待しております。

大きな出来事としては、コロナウイルスの蔓延により行うことができていなかった行事を今年度から再開する運びとなりました。今日に至るまでに花火大会や芋煮会を行っており、再開するまでに四～五年の期間が空いてしまい、寮生の中に行事の経験者がいない状態でどうにも手探りになってしまっているのですが、再び感染が広がってきたコロナウイルスに十分な警戒をしつつも、行事がある寮生活が当たり前のものになるよう地道に取り組んでいきたいと考えています。

また、施設の老朽化などもあったため、台所の排水管の修理やトイレの大幅な改築工事が行われました。私達寮生がより良い生活を送れるために、費用を出してくださった皆様への感謝の気持ちを忘れずに利用させて頂く所存です。

寮母さんには前述したとおり、寮生が少ないことにより掃除やゴミ捨て、少ない予算での寮食のやり繰りなどで、多大な負担をかけてしまっているのが現状になっています。私達が集中して勉強に励めるのは、そして健や

かに寮での生活を送ることができているのは、ひとえに寮母さんの並々ならぬ尽力があつてこそです。今後も寮母さんへの感謝の気持ちを忘れずに生活を送っていききたいと考えています。

最後になりましたが、コロナウイルスの脅威がまだ残つており油断ならない状況ではありますが、私達寮生が今伸び伸びと不自由なく寮生活が送れているのは、有為会の皆様を始めとした周りの方々の支援があつてこそです。これからもそういった方々への感謝の気持ちを胸に秘めながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

寮生名簿

大橋 陽（東北大学理学部数学科1年）

〔米沢興譲館高校R5卒〕米沢市出身

渡部 勇真（東北大学経済学部1年）

〔長井高R5卒〕長井市出身

菅 桜太郎（東北大学経済学部2年）

〔長井高R4卒〕白鷹町出身

杉山 綾太（東北大学工学部材料科学総合2年）

〔長井高R4卒〕小国町出身

日下 和也（東北医科薬科大学薬学部3）

〔米沢興譲館R3卒〕高畠町出身

◎令和5年度前期寮長

鹿又 桂司（東北大学経済学部4）

〔米沢興譲館R2卒〕南陽市出身

鈴木 優（東北学院大学経済学部4）

〔米沢商業R2卒〕米沢市出身

寮母

桶川 幸江（古川市出身、就任4年目）



米沢有為会 育英事業の

学 生 募 集

公益社団法人

米沢有為会だより号外

米沢支部 第14号

米沢市金池5丁目2番25号(米沢市役所内秘書広報課内)

置賜3市5町の在住者・出身者のお子さんを対象に募集しています。

★奨学生募集(令和6年4月採用奨学生)

奨学金制度の概要 当会の奨学金は3種類あり、いずれも無利子。

種 類	名 称	募 集 対 象 者	定員	貸 費 額 等
I 型(貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2名	月2万円貸費
II 型(減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III 型(貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費

◆応募締め切り 令和5年10月26日(木)

◆面接選考日 令和5年11月4日(土)午後1時

現在貸与中の出身高校：山形東高、米沢中央高、米沢東高、九里学園高、米沢興譲館高、米沢商業高

★寮生募集(令和6年4月入寮生)＜予定＞

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資 格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、又は入学予定者(男子のみ)	仙台市内及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、又は入学予定者(男子のみ)
寮費(月額)	(平日2食付 光熱費含) 65,000円	
募 集 人 員	10名程度(定員24名)	10名程度(定員15名)
面 接 選 考	1月～3月に4回実施予定 ※空き室があれば通年募集します	
面 接 場 所	米沢会場(自宅も可) (オンライン面接を行います)	

※今回は暫定的なもので、正式には10月下旬に募集要項、ホームページに掲載します。

◆募集は予約募集(大学合格前に予約内定する場合)と通常募集(大学合格後に採用決定する場合)の2通りで行います。

現在の寮生の出身高校

東京興譲館…山形東高、山形市立商業高、高畠高、長井高、米沢興譲館高、東北学院高、米沢中央高

仙台興譲館…長井高、米沢興譲館高、米沢商業高

※募集の詳細は公益社団法人米沢有為会ホームページを是非ご覧ください。

<http://www.yonezawa-yuukaikai.org/> (最新情報はCTRL + F5で更新してください)

学生寮紹介

食事付きで割安そして安心 仲間との交流で自分磨き

◎寮は2食付(平日朝・夕) 光熱費込で6.5万円…アパートより安く負担軽減。

●アパートで生活する場合

東京(郊外)で家賃5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り額約10万日程。

仙台で家賃4万～5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り約8～9万日程。

◎東京興譲館寮は新宿駅から約40分。仙台興譲館寮は市街地まで約3km。

◎居室は個室。プライバシーは、しっかり確保。閑静な住宅街にあり環境抜群。

◎企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。

(協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。)

◎寮生の仲間や寮母、館長が身近におり、気軽に談話や相談ができ、本人も保護者も安心です。保護者や学校の先生も入寮を勧めています。

◎YouTubeで「東京興譲館寮」「仙台興譲館寮」と入力。紹介動画が見られます。

寮生からのメッセージ/寮生仲間が皆さんの入寮を待っています

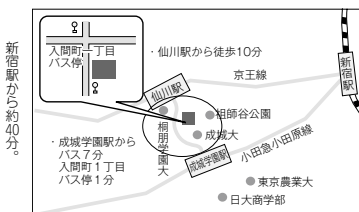


東京興譲館

寮生活をして良かったことは、自分と育った環境、世代の異なる人たちと密接に関わる機会が得られたことだ。異なる価値観に触れ自分の考え方の幅が広がった。もちろん、家族以外の人と生活を共にすると、集団生活ならではの問題が生じる。しかし、その時々にしてその問題を解決するか、寮生全員の意見を尊重するためにどうすべきかを考えることで、問題解決能力を高めることができる。ものの伝え方、後輩や先輩たちとの接し方など、一人暮らしでは決して味わうことができない体験ができる。他人への敬意と礼儀は欠かせない。それらを社会に出る前に身につけることができたのは嬉しい。寮生活では辛いこと、楽しいことの両方がある。いずれの場面も自分を成長させてくれる大切なものだ。寮生活は人間修養の場でもある。悩んでいることがあれば寮生や寮母さん、有為会の方々が相談によって力になってくれる。高校生の方々には、ぜひこの東京興譲館にやってきて、自分を成長させる好機としてほしい。(寮長:二宮 渉)



東京興譲館寮：東京都調布市入間町1-36
TEL：03-3309-3302

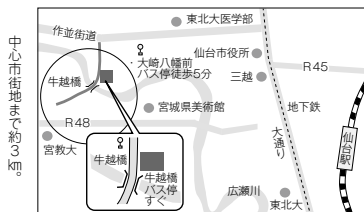


仙台興譲館

現在仙台興譲館には7名の学生がおり、大学や学年の違いは関係なく、不安なことや困ったことがあっても互いに相談したり助け合ったりして充実した共同生活を送っています。食事は基本的に土日祝日、長期休暇などを除く平日の朝夕の2食、栄養たっぷりの食事をたくさん作ってくださいます。毎日忙しくて料理ができず、栄養が偏りがちな大学生にとって温かい手料理が食べられるのでとてもありがたく感じています。当寮は自治寮で、月に一回月例会、半年に一回寮生総会を行い、寮での出来事や問題などについて話し合っておりより良い環境を築き上げようとしています。門限はなく一般的な規範のある生活を送れるなら快適で自由な毎日を送れます。また寮の近くにはコンビニやスーパーがあるため買い物に行きやすく、交通の便もよく近くにバス停があるため移動もしやすくなっています。仙台的大学、短大、専門学校に進学するのであれば、仙台興譲館はとてもいい環境なので入寮の検討をよろしくお願いいたします。(寮長：日下和也)



仙台興譲館寮：仙台市青葉区角五部2-6-21
TEL：022-222-4790



我妻榮記念館だより

○開館の経緯等

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生まれ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過ごされました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越され、大友家がいを受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建築物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月二十一日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年六月）
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～）

○令和四年度の運営報告

・年間開館日

通常開館日…毎週月・木・金・日曜日の午後一時～

四時 一八九日開館

臨時会館…八日開館 合計一九七日開館

・入館者数 二八七名（三年度は一六三名）

・記念館の利用 二一九名（三年度は二一四名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会が利用
・施設整備等

樹木の刈込及び消毒等、ウコギ垣補修の実施

・資料整備 著作を(株)ジーエスデザインがPDF化
・印刷出版

「我妻榮記念館だより」第二十七号発行（十一月二十四日）

市内各施設、弁護士会、法学部のある大学など四七

八ヶ所に送付

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学五年生全員（五八一名）に配布

・我妻榮記念事業実行委員会

令和四年が記念館開館三十周年、平成五年が名誉市民「我妻榮先生」の没五十年にあたることから令和四年度に組織した記念事業検討委員会を実行委員会に衣替えし、寄付金募集などの事業について、令和四年度から実施しました。

また、実行委員会の下に次の八つのプロジェクトチームを編成し、見積の徴収や具体的な実施に向けた取り組みを始めました。

プロジェクトチームは以下のとおり

- ① 銅像建立・周辺整備担当
- ② 展示環境整備担当
- ③ 記念行事担当
- ④ 法律相談担当
- ⑤ 我妻榮展担当
- ⑥ 生家訪問促進担当
- ⑦ 総務担当
- ⑧ 募金担当

なお、令和四年度に実施したものは銅像建立・周辺整備担当の「外壁塗装工事」及び「台所北面雨水対策工事」、生家訪問促進担当の「中学一年生向けリーフレット」の作成、展示環境整備担当では、懸案であった「本田吉馬宛我妻榮書簡」を本田吉馬氏のご子息貞夫氏から寄贈を受け、レプリカの作成や額装に取り掛かりました。また、募金担当では、令和四年十一月一日から令和五年九月三十日までの期間で募金活動を開始しました。募金目標額は三百万円。

令和五年度は、銅像建立やウコギ垣の新設整備、駐車場整備などを行い、ご命日にあたる十月二十一日には、午前に銅像の除幕式（記念館前）や無料法律相談（伝国の杜）、午後には、記念式典・記念講演会（講師：新堂幸司東京大学名誉教授）・パネルディスカッション（パネリスト：新堂幸司氏・我妻孝氏・柿崎聡太氏・コーディネーター矢尾板操記念館館長）を伝国の杜で実施し、その後会場を上杉伯爵邸に移し、「偲ぶタベ」を開催いたしました。講演会・パネルディスカッションには、県内外から二百五十名を超える方々にご参加いただき、成功裡に終了することができました。

・その他

＊県立米沢興譲館高校の自頼財団奨学生による清掃奉

仕と館長講話（六月十八日生徒七名他）

＊運営委員会 十月は新型コロナウイルス感染防止のため中止、三月は十四日開催予定

○令和五年度の運営計画

・開館日は、毎週月・木・金・日曜日の四日間
午後一時～四時

なお、令和五年十月二十一日を挟んだ「特別展」の時期は、月、木、金、日以外の日の開館も考えなければならぬと思っています。

・記念館の補修整備

・記念館の資料（著作）整備

・「我妻榮記念館だより」の発行（第二十八特別号 九月頃）

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学校五年生全員に配布

・運営委員会（年二回 十月・三月を予定）

・米沢市名誉市民我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業の実施

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、管理運営しています。

名誉館長 我妻 学

顧問 上村 勘二

館長 矢尾板 操

運営委員 本多 和彦

安部 敏

佐野 隆一

高橋 節子

曽根 伸之

佐藤 哲

佐藤 繁

手塚 正

管理人



我妻榮記念館

米沢有為会 我妻榮没後五〇年・我妻榮記念館開館三〇周年記念事業 寄附金応募者ご芳名

ご芳名を五十音順に掲載します。

〔百万円〕

尻 高 邦 夫

(株)日本評論社
(串 崎 浩)

〔三万円以上 五万円未満〕

くさかり小児科
(草 刈 章)

〔三十万円〕

我 妻 学

高 村 栄 子
中 條 良 文

〔二十万円〕

安 部 敏

我 妻 愛 子

〔五万円〕

稲 村 久 仁 雄
上 杉 邦 憲

〔十万円〕

旭化成不動産
レジデンス(株)

上 杉 裕 憲
上 杉 鷹 山 公 と 郷 土 の
先 人 を 顕 彰 す る 会

安 達 悦 子

(医)さの医院

伊 藤 和 夫

岩崎石材工業(株)

(株)岩波書店

(株)勁草書房

青 木 恵 子
伊 藤 秀 太 郎

(医)堀内医院

上 杉 紀 美 子
上 杉 城 史 苑

梅 津 幸 保

(株)エービーエム

黄 木 正 登

大 瀧 則 忠

太 田 建 設 (株)

置 賜 建 設 (株)

片 平 善 造

加 藤 国 雄

金子建設工業(株)

(金)子 尚 人

(株)アサイ

(株)羽陽印刷
(石 田 一 郎)

(株)川島印刷
(川 島 良 範)

(株)小泉創芸
(株)向洋アドシステム

(金)子 晃 司

(株)小嶋総本店

(株)小島洋酒店

(株)後 藤 組

(株)タカハタ電子

(株)タスクフーズ

(株)データシステム米沢

(株)平山孫兵衛商店

(株)本多建設

(本 多 作 之 助)

(株)丸 定

(株)山形銀行米沢支店

(有 海 利 至)

(株)有 斐 閣
(江 草 貞 治)

(株)米沢牛黄木
(黄 木 秀 太 郎)

(株)我妻組
(我 妻 敬 太)

甲 國 信

菊 地 隆 雄

五 雲 寺 卓

小 島 慎 司

小 島 長 五 郎

小 関 眞 一

ジーエスデザイン(株)

宗教法人上杉神社

鈴 木 恒 雄

鈴 木 浩 美

仙台環境科学(株)

田中クリニク

(田 中 雄 二)

塚 原 保 夫
辻 自 動 車 (株)

(渡 部 孝 重)

常 國 紀 之

鉄砲屋町町内会
(加 藤 雅 和)

東亜熱研工業(株)

東北警備保障(株)

(武 田 誠 一 郎)

中 田 裕 康

中 村 中

日台マシナリー(株)

(丹 野 信 嗣)

平 山 英 三

舟 寿 し

(深 澤 和 子)

船 山 由 有 子

弁護士阿部 哲
弁護士遠藤正紀

【三万円未満】

櫻寒酒酒齋齋齋齋齋齋近近今紺近小小小後後後後後
井河江井井藤藤藤藤藤藤木見指庄治療院野野野野野松林林林藤藤藤藤藤
泰幸裕環栄助昭一伸助耕繁喜孝夫浩仁代三
之平隆彰司樹脩助昭一伸助耕繁喜孝夫浩仁代三

嶋島地澤佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐貞佐佐佐佐佐
貫津主田藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤包田木木木木木
昭真憲美良洋広陸庄孝憲一詠健康隆辰邦
雄一郎根子一三明啓哲毅三一繁市一彦一一文一彦隆明

高高高曾関関関関情須須鈴鈴鈴鈴鈴鈴菅須須新白清嶋
橋橋野根谷原口野藤藤木木木木木木野貝貝貝保田水貫
敬栄伸知謙真紀孝誠良信佐幸智利英芳修壽
一二讓之樹一博男夫一進平幸和一学幸夫雄栄悟二雄

月塚田玉種田田田辰竹武竹武瀧瀧瀧高高高高高高
本田村橋村中中中已股田下井澤澤口橋橋橋橋橋橋橋
昭昌邦博信正邦正理良政義良幸康正千代子
男伸夫幸次勝和彦夫志啓亘優祐新彦洋彰紀宏洋子

羽芳羽丹二二西仁仁西中中中中中中内外富手手角土土
隅賀賀羽羽宮宮山科科澤村條條嶋川藤山所塚塚田屋田
弘敏秀敏健一雅義盛義明忠正文弘謙宮力一
宣明一春一夫俊英之和穆仁夫洋晴徳宰一雄正弥宏成

船藤房福福福深樋平平平平樋樋林浜濱羽長長長長長
山永間島崎崎澤渡山吹塚井口口田田生部川川川川川
敏祐正真和三保順隆志康哲常吾吉利千憲啓
昭介勝至子進子一信博弘隆子敏愛弘信秋健治二

銅像除幕式



建立した銅像



除幕式風景

動画URL・QRコード

◇記念講演…米沢有為会ホームページの文化大学サイトから YouTube にアクセスしてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=mRS0waIBxdk>

◇銅像除幕式、記念式典、パネルディスカッション

銅像除幕式 <https://www.youtube.com/watch?v=xFmE0diydT0>

記念式典 <https://www.youtube.com/watch?v=tvQpfHcGdgg>

記念パネルディスカッション

<https://www.youtube.com/watch?v=FjgTCEqrw5o>

銅像除幕式

記念式典

記念パネルディスカッション



米沢有為会『文化大学』

第三十二回文化大学

令和四年十二月四日（日）

オンライン

「実践的な在野学の冒険

―湘南科学史懇話会二十五年の歴史―

湘南科学史懇話会代表

猪野 修治

はじめに



一九六四年四月、山形県高島町から上京し七年ほど、学生と勤労者（大学の職員と研究員）の生活を送り、東京都内を転々とし、都内の私立高等学校（物理教諭）に勤務したのち、いまは神奈川県大和市に住み大和市は広域的にみれば湘

自由な生活をしております。

南地域にありますが、その湘南地域を根拠地（藤沢市・茅ヶ崎市）にして、湘南科学史懇話会なる市民の研究会を主宰し、二五年間ほど続けております。湘南の科学史を研究するのではなく、懇話会を実施する場所が湘南にあるという意味です。米沢有為文化大学から、その湘南科学史懇話会二十五年の歴史を話せ、という身に余るお誘いを受けましたので、その大まかな概要をお話することになりました。

I 湘南科学史懇話会の歴史

一九九六年三月、東京の市ヶ谷で現代思想史研究会を立ち上げ、数回の研究会（科学思想史）を行ったのが始まりでしたが、一九九八年五月、現代思想研究会を発展的に解消し、開催場所を湘南地域に移し、湘南科学史懇話会を立ちあげました。それ以来、二〇二二年三月までの二十五年間に一〇六回の懇話会を実施してきました。

湘南科学史懇話会の特徴は三つです。まったくの会員制をとらず、そのときどきに参加した方々が会員、という一期一会の場であること、講演終了後に徹底的な質疑と討論を行うこと、そして、最近はどうでもありませんが、長い間、お招きする講師陣に対する謝礼は無料であったことです。このことは主宰者との信頼関係に基づいています。

お招きした講師数は一〇〇余名で参加者数は三〇〇〇余名に及びます。そのときどきの実施内容はすべて、『湘南科学史懇話会通信』（雑誌）に掲載してきましたが、途中からまったく経済的余裕がなくなり、第十四号でストップしてしまいました。そのかわりHPに掲載することになっています。具体的な議論の内容については、湘南科学史懇話会のHPを参照していただきたい。湘南科学史懇話会 HOME (shonan-kenet)

Ⅱ 湘南科学史懇話会にお招きした講師（ごく一部）

今回の講演では、一〇〇余名に及ぶ講師陣から二十八名の講師を選び出し、講師との交流と研究を紹介しました。具体的な講演の概略は下記のとおりです。

日本の知的創造の統合者、画期的な上杉鷹山研究、科学者の反軍基地闘争と核廃絶運動、福島原発による海洋放射能汚染、世界の核被害の現場、敗戦後の占領史研究、関東軍細菌部隊七三一、アインシュタインの来日騒動、壮大な物理学の歴史、物理学者石原純、化学者たちの京都学派、脳死・臓器移植問題、フランス科学思想、女性化石採取者、数学史と数学教育、日本の民俗学と文化人類学、超人発明家の研究、日本の革命思想、革命前後のベトナム政治、公共哲学と教育、江戸中期の特異な思想家、藤沢の演劇（遊行かぶき）、現代詩人による中原中

也研究、学術書編集者の仕事と精神、等々です。

今回の講演では、これらの極めて多岐にわたる諸問題を提供し議論してくださった二十八名の講師名をあげ、その各講師の研究と著書等を紹介しました。詳しくは、米沢有為会文化大学のホームページをご覧ください。

Ⅲ 実践的な在野学の冒険

二十五年間の活動を振り返ると、まずは、多数の講師陣のすべての研究書と関連書を読み込むことに全力を投入してきました。その全力投入の読み込みはそのつど、極めてしんどい苦しいほどのものでした。しかし、在野の学徒には苦しくも至福の時でもあり、研究書と関連書から学んだことは計り知れません。いわばそれは、他者の学問の内実に肉薄する営為でもあり、その営為は実践的な在野学の冒険でもありました。この営為は啓蒙活動ではありません。この混迷する時代に、いかに生きるかを永続的に問い続ける営為でもあります。

結果的には、恥ずかしながら、少年時代から現在までの自伝的な学問活動を全面に出してしまつたようで恐縮しております。最後に、とりとめない話をお聞き下さった米沢有為会の皆様、そして講師にお招き下さった文化大学事務局の方々に、深く感謝と御礼を申し上げます。

第三十三回文化大学

令和五年二月二十六日(日)

オンライン

「満洲」と米沢有為会

―宇佐美勝夫の役割―

前鶴見大学客員教授

菊地 隆雄



中国文学者の竹内好(一九一〇―一九七七)は戦後二十年ほどして「(日本は)『満洲国』の葬式を出していない。口をぬぐって知らん顔をしている。」と言いました。今や、戦後八十年に垂んとしています。「口をぬぐって」いる意識もな

く、もはや「満洲」は歴史上の用語になりつつあります。「満洲」とは、中国東北部の地域名だけを指す用語ではありません。日露戦争後(一九〇五)から日本の敗戦

(一九四五)までの、この地の時空間をも示す用語です。当初は旅順―長春間の鉄道とその附属地、それに加えて関東州(旅順・大連を含む遼東半島南端部)の租借権がロシアから譲渡されます。やがて、関東州の守備と鉄道附属地の警備が主たる任務である関東軍が満州事変を起こし、「満洲」全土を支配して「満洲国」を建国(一九三二)します。(現在の中国では傀儡国家とみなし、「満洲国」を認めず、「偽満洲国」と呼称しますが)その「満洲」に置賜地方からも多くの人々が渡るようになります。

私自身は戦後ですが、八十年代の前半に大連の大学で教壇に立つ機会があり、それ以来、毎年のように旧「満洲」のあちこちを歩いてきました。ただし、主な関心は自分の専攻(中国の古典文学)に直結している營城子の漢墓、渤海国(六九八―九二六)の上京龍泉府、金王朝(一一一五―一二三四)の会寧府などにありました。しかし、そうした遺跡を見て回るうちに、次第に旧「満洲」の出来事や文学作品にも強く惹きつけられるようになり、その背景となっている場所を歩くようになってゆきます。

今回はこのような経緯で見聞したり、調べたりしたことを基にして、次のような項目について話してみました。

- 1、満洲の都市部で生活した米沢有為会の会員たち
- 2、満洲の奥地に入植した置賜地区の「満蒙开拓団」

3、満洲国國務顧問としての米沢有為会会長宇佐美勝夫
 1の米沢有為会の会員は、主に関東州の大連や満洲の奉天（現・瀋陽）・新京（現・長春）などの大都市で生活していた官吏・軍人・満鉄社員・その他の大企業の社員たちです。この人たちの生活は大連や新京の建築物や街の様子を示しながら説明しました。

2の「満蒙開拓団」については、佳木斯付近に入植した「板子房置賜郷開拓団」を取り上げました。「開拓団」の入植地は、既に現地の中国人の耕していた土地を政府の関連機関が安く買い叩いて用意したものがほとんどでした。これによって生じた現地の中国人との軋轢が敗戦時の悲劇の一因となっています。この開拓団も敗戦時に小学校の校舎に追い詰められ、多くの焼死者と集団自決者を出しています。その跡地を訪れてみると、今は風力発電のプロペラが唸りを上げて回っているばかりでした。

3の宇佐美勝夫は当時米沢有為会の会長でもありましたが、会長に在任したまま満洲国國務顧問となります。その活動と役割は、側近が残した日本側の記録と中国側の國務總理鄭孝胥の日記を合わせ鏡のように用いて明らかにしようと試みました。草創期の満洲国では関東軍・日系官僚の日本側と執政（のちに皇帝）溥儀・總理鄭孝

胥及び満系官僚の中国側との調整がつかず、宇佐美勝夫にその調整役の白羽の矢が立ちます。置賜の人々はその就任をたどえようない榮譽として喜びますが、実は大変困難な役どころでした。宇佐美勝夫は朝鮮總督府内務部長官として軍人総督に仕えた経験があり、その誠意を尽くして粘り強く相手を説得する手腕と理不尽なことを頑として退ける気質、それに部下を思いやる人間性が高く評価されていました。宇佐美は任に着くや、毎朝静かな時間に總理鄭孝胥の執務室を訪れてじっくり話し合い、週に一度は関東軍司令官を訪問して会談し、日系・満系を問わず官僚から常時意見を聴取して、それぞれの立場の人たちの信頼を得てゆきます。因みに鄭孝胥はまったく名目だけの總理で、関東軍や日系官僚の言いなりであったというのが定説ですが、鄭孝胥日記を読む限り、少なくとも宇佐美勝夫が國務顧問であった時期は、宇佐美の努力によって、鄭孝胥の意見や意思が一定程度「満洲国」の政治に活かされていたように思われます。

宇佐美勝夫は朝鮮總督府の内務部長官、満洲国の國務顧問、関東大震災時の東京府知事、戦時に備えての資源局長官や国家総動員審議会委員など、いづれも困難な役割を担わされています。今後はそうした職にあつての苦悩にまで立ち入った考察が課題となります。

第三十四回文化大学

令和五年八月二十三日（水）

オンライン

「我妻榮先生の人となり伝える

― 没後五十年・記念館開館二十周年に
際して」

我妻榮記念館館長

矢尾板

操



《講演要旨》

皆様が持っている我妻榮先生のイメージは、何となく偉く凄い人というイメージではないでしょうか。それ以上のことは出てこないように思います。ある学者（良永和隆専修大学教授）が例え話をしてくれたのが

心に残っています。

「戦後空襲で焼け野原となった日本で、新たな家を建

てるとき、その家の根幹となる土台や柱（勿論法律という形）を作ってくれたのが我妻榮先生なのです。我々日本人はすべからず全員、その日本人の家に住んでいるのですが、外壁・内壁・天井等で隠れて見えませんが、戦後その中で保護されて今日に至っているのです。」

我妻榮先生についてはもう一つの天与の才能がありました。それは万人が認めているお人柄であります。我妻榮先生に接した人はすべてそうだと言っていたあの人格に焦点を当ててみたいと思います。幸いなことに、著名な我妻榮先生ですから、多くの方がその場面、その時を記録してくれていました。それをご紹介するのが一番かなと思っています。少なくとも、書いてくれた方はそう思っている事実ですから。

これらの記録全てに共通していることは、尊敬と敬愛の念を持って書かれていることである、ということを見つけて驚いています。

皆さんの疑問は多いと思います。

あのような偉大な人格がなぜ米沢から生まれたのか。日本の大きな転換点でなぜあのような行動をとれたのか。なぜあんなに誰にでも親切なのか。なぜ底抜けに明るい性格なのか。

私はこのような疑問への答えになるようなことが伝わ

れば嬉しいです。普通、偉い人というと、人格は今一つというイメージかと思っています。多分人を押しのけないと偉くなれないと思われるでしょうから。でも天は我妻榮先生にお人柄という資質も与えました。これから、記録してくれた方達の六つの原文をそのまま紹介させて頂きます。しかし、ここでは紙面の都合から内容は割愛し、タイトルだけ掲載します。

- 一 「米沢大火」 松野良寅
- 二 「おせっかい好きの少年」 松野良寅
- 三 「米沢の風土から」 遠藤浩
- 四 「親切な人」 宮沢俊義
- 五 「終戦の日八月一五日の言葉」 中山文枝
- 六 「弔詞」 南原繁

《講演まとめ》

私の我妻榮先生へのイメージはこうです。

近代日本の二大変革期は、ご存知の通り「明治維新」と「第二次世界大戦」です。明治維新の立役者というと、西郷隆盛、坂本龍馬、高杉晋作とかすぐ名前がでてきます。ところが、第二次世界大戦後、戦後復興に貢献した人を挙げてくださいと言っても、すぐ名前が出てこないのではないかと思います。私は我妻榮先生がその一人だと思っています。我妻榮先生は戦後の有名な人、例えば

吉田茂総理大臣のように権力を持った人ではありませんでした。松下幸之助氏のように起業して事業で成功した人でもありません。勿論大谷翔平選手のようにスポーツで名をあげた人でもありません。今お話したように全く違ったタイプの偉人なのです。もし我妻榮先生がいなかったら、今の日本の姿は違ったものになったような気がします。

戦後あらゆる権威が否定される中、東京大学は残りました。教育・文化国家を目指すシンボルになったように思います。「銀杏散るまっただ中に法科あり」と言われたように、東京大学法学部はまたその中のシンボルでした。我妻榮先生は、その東京大学法学部の栄光と名誉を一身に背負って活躍されたのです。

私は、間接的にせよ、我妻榮先生に出逢えて幸せでした。

《出典》

最後に今回の講演の出典をご紹介します。

『追想の我妻榮―険しく遠い道』有泉亭著 一粒社

『自雷子物語…我妻榮先生に学ぶ』松野良寅著

(我妻榮記念館)

置賜市町だより

米沢市

新・米沢市立病院が開院

―新・三友堂病院と合築し、機能分化・連携強化を推進―

米沢市病院事業管理者 渡邊 孝男

待ちに待った新・米沢市立病院が令和五年十一月一日に開院しました。新・三友堂病院との機能分化と連携強化を推進するため、合築の形となりました。患者・家族や職員等の利便性を考慮し、民間資本によるアメニティセンターも合築に参画しました(図1)。

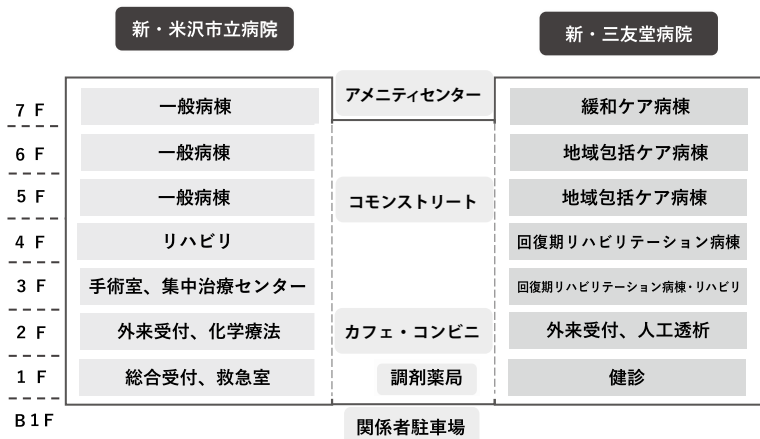
平成三十年十一月の「米沢有為会々誌」(復刊第六十八号)の特別寄稿で「米沢市における地域医療改革―米沢市立病院と三友堂病院の同時・隣接『病院建て替え』について―」の報告を行いました。その要旨は以下の通りです。

①米沢市・置賜地域では少子高齢化、人口減少が進み、



図1. 新・米沢市立病院と新・三友堂病院、アメニティセンター

その対策が喫緊の課題である②山形県は医療サービス受給のミスマッチを改善するため、平成二十九年に「地域医療構想」を策定した③今後、肺炎や骨折、脳血管疾患の患者がわずかに増



※主たるフロアの紹介です

図2. 合築となった両・新病院とアメニティセンターの各階の構成・機能

加するが、妊娠・分娩による入院患者は減少する見込み
 ④医療提供体制としては、置賜地域では急性期病床が過剰、回復期病床や訪問看護ステーションが不足 ⑤医療・介護の人材不足
 米沢市は、このような地域医療の課題に適切に対処するため、平成二十九年に開催された「米沢市医療連携あり方検討委員会」で、米沢市立病院は急性期医療を担い、三友堂病院は主として回復期医療や緩和医療を担うという改革方針を定め、両病院は、その改革の趣旨に即した新病院建築に取り組むことになりました。
 具体的には、過剰となっている急性期病床を減らして米沢市立病院に集約し、回復期病床は三友堂病院に集約することになりました。また、慢性期人工透析や健診業務も三友堂病院に集約することになりました。
 設計業者や建設業者も共同で選定し、令和三年六月に両新病院建設工となりました。工事は順調に進み、約二年四ヶ月で本体工事が完成し、開院となりました。
 今後、旧米沢市立病院の解体と外構工事を行い、令和六年十二月に全ての工事を終え、グラントオープンとなる予定です。その後、混雑が予想される周辺道路整備が計画されています。例えば、万世橋成島線、石垣町塩井

線の道路整備や一般県道板谷米沢停車場線（福田町区間）の拡幅、老朽化した相生橋架橋の架け替えです。これらの早期着工を期待しています。

合築となった両新病院とアメニティセンターの構成や機能については図2に示しました。

新・米沢市立病院と新・三友堂病院は、開院時に「地域医療連携推進法人・よねざわヘルスケアネット」を設立して、共同事業や人事交流等を進め、ともに経営効率化を図ることになりました。このような連携・協力を行い、米沢市民の生命と健康を守るという基本精神のもと、図3で示した診療体制でスタートいたします。

診療科としては、呼吸器内科や糖尿病・内分泌内科などの常勤医は未だおらず、非常勤医師による外来診療となっています。また、看護師なども不足しており、これ等の課題解決を目指しているところです。

米沢は上杉鷹山公が医学学校「好生堂」を建て、医学振興を図った地域です。その後、ここで学んだ子弟が遠く長崎などで最新の西洋医学を学び、地元に戻り地域医療の発展に貢献し、「東北の長崎」との評価を受けました。そのような輝かしい伝統を有する米沢地域の医療を更に発展させるため、職員一同、三友堂病院や地域の医療機

関等と連携して、良質で安心・安全の医療提供に力を尽くしてまいります。

両病院の役割と特徴

米沢市立病院	三友堂病院
24時間365日救急患者受け入れ、急性期の患者さんに対する医療提供	状態が安定した後の患者さんのリハビリや在宅医療を行うための医療提供
●病床数 263床 ●診療科目 内科／循環器内科／消化器内科／糖尿病・内分泌内科／血液内科／呼吸器内科／神経内科／腎臓・膠原病内科／リウマチ科／緩和ケア内科／小児科／皮膚科／放射線科／外科／消化器外科／内視鏡外科／乳腺外科／呼吸器外科／心臓血管外科／整形外科／形成外科／脳神経外科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／麻酔科／リハビリテーション科／救急科／病理診断科／歯科口腔外科 ●外来受付時間 8時～11時30分、12時30分～16時 ※曜日・診療科ごとに異なります。 ●外来休診日 土日・祝祭日、年末年始 ※救急外来は休診日無し。	●病床数 199床（回復期リハビリテーション病床：90床、地域包括ケア病床：87床、緩和ケア病床：22床） ●診療科目 内科／消化器内科／呼吸器内科／循環器内科／内分泌・代謝内科／腎臓内科（人工透析）／神経内科／精神科／心療内科／外科／整形外科／脳神経外科／リハビリテーション科／緩和ケア外科／皮膚科 ●外来受付時間 8時～11時 ※午後の診療は全て予約制です。 ●外来休診日 土日・祝祭日、年末年始

図3. 米沢市民ならびに近隣住民に安心・安全な医療を提供

長井市

スタインウェイピアノ活用事業

令和四年十一月、元東京藝術大学特任教授瀧井敬子氏（同年、長井市音楽芸術アドヴァイザーに就任）より、世界三大ピアノブランドのひとつスタインウェイ社の「フルコンサートグランドピアノD-274」のお心遣いをいただき、新たな長井市の宝となりました。

「障がいの有無に関係なく音楽に親しむことのできるインクルーシブな社会づくりに役立ててほしい。多くの皆様にピアノに触れていただき、音色を楽しんでいただきたい」という瀧井氏の思いから、この取り組みが始まりました。

スタインウェイ社のグランドピアノは最高級のグランドピアノ市場の八十%を超える世界トップクラスであり、このD-274は他のモデルよりも、優れた材料、部品を使い、手間隙かけて丁寧に作り上げているので、音色や音質も素晴らしく、世界最高峰のピアノになります。

このスタインウェイピアノを活用した演奏会を継続的に開催することにより、誰もが音楽を通じ幸せを感じ、

長井市における音楽を基軸とした芸術力向上を目指し、賑わいの創出に結びつけることを目的とした企画をご紹介します。

音楽を基軸としたインクルーシブなまちづくり

ピアノのお披露目として、令和四年十一月二十七日長井市民文化会館ホールにて「Willkommen in Nagai」ようこそ!! 619125番目のスタインウェイピアノお披露目コンサートを開催し、市内の障がい者を含む四〇〇人以上の関係者が参加し、ピアノの音色を楽しみました。このピアノの選定に深くかわられたピアノリスト佐野隆哉氏が、ベートーヴェンのピアノソナタ第23番へ短調op. 57「熱情」、バッハヘスの「主よ、人の望みの喜びよ」など、お披露目にふさわしく激しさと喜びの感情を込めて演奏されました。

またピアノは弾きこまないと良い響きが生まれないということで、演奏会までの大切な取り組みとして、納品になった十月二十五日以降、地元ピアノ講師を中心とした市民によ



る弾き込みが計画され、一〇一人もの市民が関わったこと、音色や響きの変化、スタインウェイに触れることが出来た感動などが紹介されました。

「お披露目コンサート第二弾」は令和五年四月二日に障がい者を含む約七五〇名を市内外から招待し、管弦楽山形交響楽団、常任指揮者でびわ湖ホール芸術監督の阪哲朗氏の指揮、ピアノは川崎翔子氏と佐野隆哉氏、本市出身のソプラノ梅津碧氏が出演し、姉妹都市であるドイツ・バートゼツキンゲン市が舞台となっているオペラ「ゼツキンゲンのトランペット吹き」関連曲、アルトゥール・ニキシュ「オーケストラ・ファンタジー」の日本初演を含む四曲が披露され、その華やかな演奏を楽しみました。また、この演奏会までの弾き込み参加者数は二九六名となり、更に多くの市民が自分たちのピアノとしての関わりを深めています。



六月四日には、ピアノ活用演奏会として、川崎翔子氏によるピアノリサイタルを開催し、障がい者を含む約四〇〇名がさらに響きを増した。ピアノの美しい旋律を堪能しました。宇都宮・岡山・東京で開催したコン

サートと同じプログラミングということで、長井の地でもお洒落で質の高い演奏会となりました。さらに八月二十日にはプロヴァイオリニスト相川麻里子氏とアンサンブルを楽しむコンサートを開催し、地元ピアノ教室の生徒さんがプロヴァイオリニストとアイコンタクトを取りながら息を合わせて演奏するという、なかなか経験できない演奏会を実現しました。ピアノ＋楽器でのアンサンブル経験もなく、ゲネプロすら初体験だった生徒たちが、相川氏の優しく丁寧なレッスンを経て、本番で必死に応えようとする真剣な姿や、一緒に「音楽」を奏でている演奏が聴衆の心を打ちました。

これらのコンサートに障がいのある家族とともに参加した方からは、「コンサートの招待をいただいたが、息子はマスクがつけられないし、演奏の途中で大きな声を出して迷惑をかけるかもしれないと考え、諦めようと思ったが、「気にしないで是非いらして下さい」と言われ参加を決心した。初めての経験だったが、スタッフのサポートもあり、息子がピアノの音色をニコニコ聴く様子や



たくさんの人との出会いもあり、全ての人に寄り添った素敵なコンサートで参加してよかった。今回のような体験を幼い頃から経験することで、可能性も広がると思う。」という感想をいただきました。また「娘はミュージカル鑑賞が好きなので家族で参加した。当日は終始笑顔でピアノの音色を楽しんでおり、アンコールの時は大きな拍手をし、とても楽しい時間を過ごしているようだった。娘はまた行きたいと言っている。本人が様々な催しに参加したいといっても、見守る家族にとってはやはり躊躇してしまうのが現状としてある。障がいの程度や種類は様々だが、全ての人を受け入れ、みんなが楽しく生活できる社会になればと感じている。」という声も寄せられました。演奏会終了後に、会場の皆さんに舞台上がってもらいスタインウェイに触れてみる、というサブライズもあり、この世界最高峰のピアノが多くの人を繋ぐ宝であり、インクルーシブ社会形成への大きなきっかけとなっております。

インクルーシブ教育システムの構築

スタインウェイフルコンサートグランドピアノの前に長井市民文化会館で活躍していたヤマハのフルコンサー

トグランドピアノは、令和五年四月に新築開校した山形県立米沢養護学校西置賜校に寄贈し、ピアノが繋ぐインクルーシブ教育の推進に向けての取り組みもスタートしています。西置賜校ではピアノに触れる日常的な活動、授業や行事に活用されることはもちろん、地元演奏家による校内コンサート等も期待されます。先駆けて、児童養護施設などでの演奏活動にも積極的に取り組んでいる川崎翔子氏が、六月の演奏会の翌日に米沢養護学校西置賜校を訪れ、生徒たちに演奏を披露し、生徒たちからは喜びの拍手や握手がいつまでも続いています。

障がいのある方を対象にしたバリアフリーコンサートという演奏会は、ほかの地域でも開催されておりますが、長井市のスタインウェイピアノを活用した演奏会は、「音楽は性別・年齢・障がいの有無など関係なく、誰もが楽しめ、心を豊かにする文化」であることを大切にしていますので、どなたでもご鑑賞いただけます。途中席を立たなくてもならない場面、また感動で声を出したり等そのようなことも含めて、開演から終演までが演奏会の一部であることを誰もが受け入れてご鑑賞いただいております。今後も継続的に本物の音楽、そして誰もが楽しめる演奏会を企画して参ります。

南陽市

縁を結び 実をむすぶ 南陽市

公益財団法人米沢有為会の皆様には、常日頃より当市の市政発展にご協力いただいておりますことに、衷心より感謝申し上げます。

創部三年目を迎える南陽高校市役所部の活動状況と、南陽高校と市内三中学校の全生徒を対象に電子投票で選出された「みらい市長」をはじめとする「南陽みらい議会事業」、令和七年度春オープン予定の宮内地区交流センター（宮内公民館）整備状況についてご紹介します。

「三年間の軌跡」

令和二年十二月、山形県立南陽高校内に、地域人材の育成を行う「南陽高校市役所部」が誕生しました。「南陽高校市役所部」は、部活動の名称を模して、南陽高校と南陽市役所が協働して立ち上げた南陽高校生主体のまちづくりボランティアサークルです。具体的な活動は、情報発信とまちづくりの企画実行です。情報発信は、南陽高校市役所部公式インスタグラムを立ち上げて定期的に更新を行っております。地域の情報を高校生目の通

じて発信し、魅力を広くSNSでPRするものです。

まちづくりの企画実行では、令和三年度は地元のジェラート店と新たなジェラートづくりに取り組み「ブルーベリー×桃」と「焼きりんご×つや姫」の二種類のジェラートを開発しました。農家において、食材の収穫や農産物に対するこだわりなどのインタビュを通じて、地域の魅力と課題を学習しました。

令和四年度は、市内のカフェを取りまとめた「カフェマップ」を製作しました。部員自らがカフェを取材し、インタビュを行い、地域の隠れた魅力を発見しそれをPRする大切さを学びました。

今年度の活動は、「スイーツ」と「スムージー」の開発・販売という二つのプロジェクトに挑戦しました。地元の食材探しのフィールドワークを行うとともに、スイーツプロジェクトは地元の菓子店と、スムージープロジェクトは地元のカフェとコラボレーションし、試



オリジナルスイーツの試作に励むメンバー

行錯誤をしながらモノづくりの難しさを学びました。スイーツについては「なんようのたると」と「幸せのうさぎのケーキ」を開発し、南陽屋台市というイベントで発売し完売しました。スムージーについては、開発をお手伝いいただいたカフェのメニューに数量限定で登場し、多くの方からご好評をいただきました（既に販売終了）。

また、六月には「東大駒場リサーチキャンプ公開2023 連携自治体マルシェ」に参加し、地域探究活動の一環として地元特産品を販売するとともに、来場者に地元の魅力をPRしました。まだ創部三年目ではありますが、「南陽高校市役所部に入りたいので南陽高校に進学した」という生徒が現れるなど、活動は徐々に地域に浸透しております。今後も、継続して活動することで、高校生による魅力あふれるまちづくりと地域を支える人材育成に繋げ、地方創生に貢献してまいります。

「高い志をもって、南陽市のみらいを創ろう」



南陽高校市役所部のメンバー

南陽市の未来を担う中高生世代が、自ら市政に関わることを通して、「地域に根差した人材の育成」「高い志を持って、自立的に生きる人材の育成」を図ることを大きなねらいとしています。

五月。市内中学生及び県立南陽高校生の中から南陽みらい議員への立候補を募り、十四名の南陽みらい議員が誕生しました。

六月。南陽みらい議員の中から、南陽みらい市長を志す二名の生徒が市長選に立候補しました。有権者である市内中学生と県立南陽高校生が、立候補者の決意や思いを描く南陽市の未来像を真剣に聴き、電子投票で「南陽みらい市長」を選びました。

八月。第一回南陽みらい議会が開催され、南陽みらい市長の所信表明と各議員の決意表明が行われました。南陽みらい市長の所信表明のキーワードは「PR」と「交流」。多くの人が集い元気になる政策の実現への思いにあふれていました。第二回南陽みらい議会における一般質問・政策提言では、「幅広い世代の人たちが交流できるイベント」「南陽市の魅力をリブランディングして発信」など、南陽市の現状を踏まえた意見や体験から感じる若者目線で意見交換がなされました。

九月。複数回の全員協議会では、「観光交流と世代間交流について」や「元気な南陽市を発信するには」など「PR」の話し合いが活発に行われました。みらい議員たちは、市職員の助言を参考に、アイデアの具体化や合意形成の難しさと楽しさを感じているようでした。

南陽みらい市長は、所信表明で「不安はあるが、初めてだからこそ思い切った政策を考え実現したい」と述べました。政策実現の過程で、想定と異なる現実に悩むこともあるはずです。しかし、地域に元気を与えることで、その苦勞も素晴らしい宝物になるに違いありません。

「地域の交流ときずなをばぐくむ宮内交流センター（宮内公民館）」

宮内地区にある現宮内公民館は、昭和三十五年旧宮内町役場庁舎として建設され、昭和四十二年からは南陽



第1回南陽みらい議会を終えて笑顔の議員

市役所庁舎として、昭和五十七年からは南陽市文化センター（宮内公民館）としてオープン以来六十年余りが経過しています。年間約一万二千人の利用者の安全確保及び災害時避難所機能において早急な改善の必要があり、本市では、「宮内地区交流センター（宮内公民館）整備事業」として国土交通省補助事業を活用し、現在新築整備を進めています。

施設としては、地域づくりや人づくりを支える学習活動企画・支援し、ユニバーサルデザインに配慮した、人にやさしい施設を目指します。また、災害時には宮内地区を中心に広域的な防災拠点施設になることを想定しております。そして、快適な室内環境を実現しながら建物が消費するエネルギーを極力抑えることを目指した施設（ZEB Ready相当）として建設予定です。完成は令和六年度末を予定し、令和七年度春からのオープンに向け事業を進めてまいります。



隣接する蔵菜と一体感のある外観

高 畠 町

高畠町役場 新庁舎建設へ

現在の高畠町役場庁舎は、昭和四十三年に建設され、建物全体の老朽化と耐震化の未実施により、大地震の時には、機能しない状況となっております。近年多発する自然災害により、市町村の庁舎は防災拠点としてその役割がますます重要となってきました。また、分散している窓口や不完全なバリアフリー化のため、来庁者には不便をおかけしております。

このような状況を踏まえ、防災機能の強化と行政サービスの低下を解決するため、国の有利な財政支援事業を活用しながら新庁舎の建設に着手することとなりました。

【基本計画の策定】

新庁舎を建替えるための町の考えをまとめた「新庁舎建設基本計画」策定にあたり、意見や助言をいただくための機関として、「高畠町新庁舎建設検討委員会」が設置されました。委嘱された町民九名の委員の方々と検

討を積み重ねて策定いただいた計画案に、パブリックコメントの公募も行いました。また、町民の皆さんの声を反映させるため、町内在住十八歳以上を対象として、二千人を抽出し、アンケート調査も実施いたしました。これらを反映し、令和二年十一月に基本計画を策定しました。

（基本理念）

町民に寄り添った環境にやさしい、安全・安心な庁舎

（基本方針）

- 一、防災拠点として安全・安心な庁舎
- 二、町民にやさしく誰もが利用しやすい庁舎
- 三、将来を見越した効率的で経済的な庁舎
- 四、地球環境にやさしい庁舎
- 五、温かみがあり町民に親しまれる庁舎

【基本設計の概要】

公募型プロポーザルにより決定した設計者と共に基本設計の検討を進め、基本コンセプトをまとめました。

(設計方針)

一、災害に強い防災庁舎

耐震性・防火性の確保や水害対策により、災害時に機能継続し、迅速な防災連携が可能な庁舎とします。

二、誰もが安心して利用できるバリアフリー庁舎

見通しが良く、段差のない、すべての方々にとって優しく使いやすい庁舎とします。

三、業務効率と町民サービス向上を促す庁舎

ユニバーサルレイアウトの執務室や、町民窓口をワンフロアに集約した利便性の高い庁舎とします。

四、高島の自然の恵みを生かした省エネ庁舎

気候風土を活かしたパッシブデザインにより、ZEB Ready を達成し、一次エネルギー消費量を五十%削減する庁舎とします。

五、地場産材を活用した愛着のある庁舎

高島町産杉板をはじめとする地場産材を活かした意匠により、温かみを感じる庁舎とします。

(配置計画)

一つ目としては、冬の季節風に配慮したロータリー計

画と南側を正面とした南面採光を基本とした計画とし、一階西側を南側に突き出た形状とすることで、季節風の影響を緩和し、南側から建物内部に自然光を取り入れられます。

二つ目は、中央公民館機能・広場を南側に配置し、賑わいを創出します。一階正面の一部に広場を整備し、町民開放エリアとの連携により、イベントなどの開催も可能となります。

三つ目は、まほろばの原風景になじむ、上層階をセツトバックした計画です。

総三階建てとするのではなく、階段状に上層階の床面積を小さくしていくことで、圧迫感を緩和し周囲風景になじむ形状といたします。

四つ目は、敷地内通路に隣接し、四方向からの出入り口を設けたアクセシしやすい計画としました。



南東の方向からみた完成イメージ

（平面計画）

一階は、中央公民館機能の南側配置により、庁舎と町民開放エリアのセキュリティラインを明確化し、夜間休日の利用に配慮いたしました。「どまホール」と名付けた多目的スペースは、外の広場との連携も可能で、イベントや災害時の一時避難所としても利用できます。また、西側には機械室やトイレ、階段といったコアを集約配置し、東側の眺望も確保しました。庁舎内の執務スペースは、柱の少ないオープンフロアとし、行きたい窓口が目でわかり、来庁者の多い窓口を一階に集約いたします。二階は、執行部と庁議室を集約した配置とし、災害時に庁議室は災害対策本部になり、関係各課と防災無線室を近くに置くことで、災害時の迅速な連携を可能とします。

そして三階は議会専用エリアになります。議場の独立配置により、傍聴にこられた方と議員や職員との導線が交わることなく、セキュリティを確保しやすい計画いたしました。また、三階ということもあり、眺望ができる配置を予定しております。

令和五年七月に安全祈願祭が執り行われ、いよいよ建設工事が始まりました。令和七年五月の開庁を目指します。

そしてこの度、工事の様子をより多くの方に知ってもらおうと、米沢工業高等学校専攻科の学生が製作する建設工事の紹介動画を町公式YouTubeチャンネルで配信しております。バーチャルのキャラクターが工事現場の裏側や庁舎建設に関わる人たちの紹介等を行う動画となっております。取材から製作まですべて学生が行っています。ぜひこちらもご覧ください。



新庁舎建設工事紹介動画

川西町

「旧役場跡地利活用の実施設計が完成」

～にぎわいの丘『川西まちなかテラス』～

旧川西町役場庁舎は昭和三十四年に建設され、老朽化の進行及び耐震診断による「震度6で崩壊、倒壊の危険性が高い」との結果を受け、令和三年五月にJR米坂線を跨いだ中心市街地の東側に新築移転しました。

新庁舎移転に伴い新たな課題となる旧庁舎跡地利活用については、人の往来が変化することで中心市街地の衰退が懸念されるため、今後のまちづくりの推進及び中心市街地の活性化につなげる必要があり、町民等を交えた議論を重ね、令和三年に「川西町地域振興拠点施設整備基本計画」を策定し、多種多様な活動を行う町内外の多くの方が気軽に集い、交流を通して新たな賑わいの場を創出することといたしました。

基本計画では、複合機能を導入することとし、地域づくり機能、生涯学習機能、情報発信機能、防災機能、交流機能、広場機能、共生社会機能、多目的機能、共用機能、観光窓口機能を定めました。

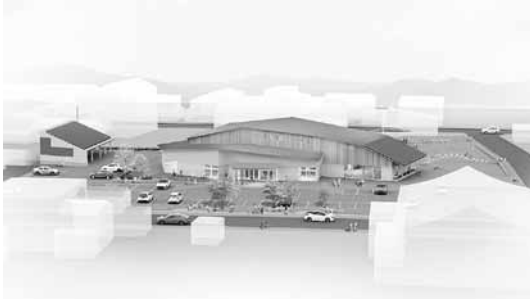
令和四年からは旧施設の解体工事を実施したほか、具

体的な本体設計業務に着手し、「町民とつくる」を実現するプロセスのもと、計四回の町民ワークショップを実施し、賑わいに必要なアイデアを全てのベースとしつつ、令和五年に実施設計が完成しました。

施設の主な特徴として、各方面からアクセスしやすい配置計画とし、施設中央部にホワイエを、周辺部に各室等を配置し、屋内外の一体利用も可能にしたユニバーサルデザインを採用しました。雪対策では、風解析により屋根計画や除雪動線計画を行いました。防災計画では、指定避難施設として、地震や水害等による停電、断水等のインフラ障害に配慮しました。また、地球環境に配慮するため、太陽光発電及び地下水熱利用設備を導入し、一次エネルギー消費量を75%以上削減する計画としました。なお、施設名称は、屋外テラス設置や街なかを賑わいで明るく照らすという意味合いを込めて「川西まちなかテラス」に決定しました。

現在は造成工事に着手しており、今後は本体工事や外構工事等を計画し、令和七年度の整備完了を目指しております。また、令和八年度からの本格稼働に向けて、今年度から町民等で構成する「川西町にぎわいづくり検討委員会」を設置し、施設の有効活用による中心市街地エリアの賑わい創出のため、日常・非日常の使い方や施設運用等について検討を進めており、今後、イベントの実

証実験や人材育成等に取り組むこととしております。
本施設が中心市街地のプラットフォームとして、ひとつのことが集まる賑わいのシンボルとなるよう、町民の皆様との対話を継続しながら事業を推進してまいります。



南側鳥瞰イメージ図



内部イメージ図（ホール）



内部イメージ図（ホワイエ）

「四年ぶりの川西夏まつり」

令和元年以来四年ぶりの開催となった「川西夏まつり」は、大勢の来場者で賑わいました。「こんなに川西町に人がいるのか？」と誰もがそう感じるほどの盛況ぶりです。屋台や売店が並ぶ会場には、過去最高の約一万人の方々にご来場いただきました。

準備は前から始まりますが、事務局は五月の実行体制の整備を皮切りに本格的な祭りモードへ突入しました。多くの皆さんから「今年こそは楽しみにしているよ。」との過剰とも言える期待を良いプレッシャーとしながら、時にはあまりの忙しさに愚痴をこぼしつつ準備を進めました。皮肉なことに、昨年の水害発生によって直前に中止となったことがリハースルとして活かされ、スムーズに準備を進めることができた様に感じます。

その準備の甲斐もあり、当日は心配された台風の影響もなく、夏まつりらしい祭日和となりました。ドタバタと直前まで会場設営を行いながらオープニングを迎え、いよいよ祭りがスタートしました。この慌てふためく状況は、人の流れが落ち着いた花火の打ち上げの時まで続きました。待ちに待った大輪の花火が夜空を彩り、誰もがその美しさに酔いしれました。間近での打ち上げは迫力満点で、スタッフもしばし手を休め、これまでの苦労

が報われる時間を過ごしました。

花火もフィナーレを迎え、祭りの全日程が終了した後、スタッフは、無我夢中で取り組んだ疲労感とやり切った達成感に包まれました。全員で一つのことをやり遂げた満足感是他にないものがあり、この感覚は、町職員としての通常の業務ではなかなか経験できない貴重な体験となりました。会場を後にする皆さんからは、「良い祭りだった。」「感動した。ありがとう。」「来年も楽しみにしているよ。」「など感謝のお言葉をいただき、スタッフ冥利に尽きました。ご来場いただいた皆さんをはじめ、この祭りにご協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。



小 国 町

白い森から新たな価値を創り出す

～森林サービス産業創出の取り組み～

本町では豊富な森林資源を地域の食や文化、健康づくり等と組み合わせることにより、小国町でしか体験できない企画やコンテンツを提供する新たな取り組みを展開し、協働人口の拡大や地域経済の活性化につなげる森林サービス産業創出事業を進めています。令和四年に実施した取り組み内容と今後の展望について紹介します。

○高まる森林資源のニーズ

小国町の面積の約九十四％はブナを中心とした広葉樹の森林です。これらは林業や山菜、キノコ等の採取、狩猟など人々の営みのなかで活用されてきましたが、生活様式の変遷に伴いその頻度は低下しています。

一方、都市部では福利厚生や研修の一環として自然豊かな地域でのワーケーションを取り入れる企業が徐々に増加しており、メンタルヘルス対策や人材育成の場として森林資源の需要が高まるとともに、健康や観光、教育、娯楽等、様々な面で注目を集めています。このような都

市部のニーズを的確にとらえることは地域産業の活性化を図るチャンスになります。

企業が求めるサービスを提供することにより、経済的な効果のほか、様々なスキルを持った人材が訪れ、協働人口の増加や新たなビジネス機会の創出も見込まれます。また、森林空間の活用頻度が高まることで、森林の保全にもつながります。

○新たな産業の創出に向けて

こうした流れのなか、町では森林セラピー基地をはじめとした町内の豊かな森林空間を活用し、森林と健康や食、文化、スポーツといったコンテンツを組み合わせ新たなサービスを生み出す森林サービス産業創出事業に取り組んでいます。

令和四年度には森林資源を活用したワーケーションや企業研修に対するニーズを把握するため、健康経営に関心を持つ企業に対するアンケート調査と森林サービス産業のコンテンツとなる地域資源の調査を実施しました。

アンケート結果では、本町に対するイメージとして「豊富な森林や水資源」、「雪」といった自然環境を挙げる企業が多く、興味がある資源として最も回答が多かった項目は「森林セラピー」となりました。また、多くの企業が福利厚生に高い関心を持っており、社員の家族を対象

森林サービス産業セミナー



とした森林セラピーや雪を活用した冬のコンテンツに対して注目を寄せていました。

これらの結果から健康効果が高く家族で楽しめるコンテンツを創出することにより、企業の研修や福利厚生プログラムとして利用してもらえる可能性があることが見えてきました。

一方、地域資源調査では地域活性化に取り組むコンサルテイング企業である株式会社さとゆめと森林浴の専門家である一般社団法人「森と未来」代表理事の小野なぎさ氏に地域資源の調査を依頼し、外部からの視点で活用の可能性について検証いただきました。

この調査は秋と冬に実施し、その結果、四季が明瞭な

ことを生かし、季節に応じたプログラムを提供することにより、一年を通して収益の確保が見込まれることや、気軽に冬の森林を体験できるプログラムを開発することにより比較的温暖な都市部からの集客が期待できると、森林だけではなく地域にあるモノやコトを一括でコーディネートできる人材の必要性等が明らかになりました。

○地域を見つめなおす

森林サービス産業の創出を進めていくためには、何を目的に森林を活用した新たなサービスを創るのか、地域の資源を使ってどのような取り組みを進めるのか具体的なビジョンを持つことが重要です。

そこで令和四年十一月～令和五年三月にかけて町民のかたが持つている漠然とした想いやアイデアを形にする「白い森の新たな滞在プログラムづくりワークショップ」を実施しました。参加者は、三つのグループに分かれ、それぞれ具体的なターゲット像を設定し、その人にあった滞在型プログラムのアイデアを出しあい観光交流プランを作成しました

このワークショップには森林サービスに興味がある様々な年齢層、職業のかたに参加いただきました。普段の生活では関わるのが少ない年代、職業のかたと一緒

に話し合うことにより、既存資源の価値を再認識し、それらをより魅力的にするためのアイディアの発想につながりました。最終日にはグループごとに設定したターゲットと、その人に合わせた滞在プランを発表し、地域資源を使ったプログラムについてのアイディアを共有しました。

○森林サービス産業の可能性

森林サービス産業創出事業には町内外の企業や団体、専門家のかたの支援をいただき進めています。

株式会社さとゆめの浅原武志氏に森林サービス産業の今後の展開や可能性について伺いました。

「小国町はブランディングコンセプトである『白い森』のとおり、ブナと雪という地域資源はとても魅力的であると感じています。夏と冬で町の景色や雰囲気が大きく変わるところが魅力的であり、この二つのシーズンでコンテンツを作り込んでいくことが重要です。ターゲットである都市部の企業や会社員にとって、小国町の雪は別世界。それを見て歩くだけではなく、癒しや驚きを与えられるように作り込んでいければ小国町でしか体験できないコンテンツが生まれます。よいコンテンツを作るためにはその地域に住むかたがたの協力が不可欠です。ぜひ町民の皆さんに事業に関わっていただき一緒にコンテ

ンツを作りあげていきたいです」

○今後の事業展開

令和五年度には、情報発信に力を入れながら、都市部の企業、個人を対象としたモニターツアーや説明会等を実施するとともに、森林を活用したコンテンツの医学的効果のエビデンス（根拠）の取得を目指します。また、ワークシヨップ等も引き続き開催していきます。

地域経済の活性化や人材交流、森林の保全等町全体の活性化につながるよう今後も着実に取り組んでいきます。



誘客が見込まれる雪の森林浴

白 鷹 町

【白鷹町版「職住育近接」の実現に向け】

本町は、朝日連峰、白鷹丘陵により三方が山で囲まれた盆地を形成し、その中に水田が広がる自然豊かな町です。春の古典桜、夏の紅花、秋の鮎、冬の蕎麦と、四季それぞれの素材をテーマにした観光四シーズンの推進により、交流人口の拡大が図られています。

令和五年度は、それぞれの特色ある地域資源を生かし、相互補完し連携するコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの考え方を基本に、SDGsの視点を踏まえつつ、人材確保、DX推進、脱炭素化の実現の視点をもち、重点四分野である「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」を施策の柱として各事業を進めていきます。

特に、保育料の完全無償化をはじめ、働く場の確保や、子育てや若者世帯を対象とした住環境整備など、人口減少対策を総合的にを行い、未来につながる暮らしを大切にするため、本町版「職住育近接」の実現に向けた取り組みを本格化することで、定住人口を確保し、持続可能なまちづくりを進めています。

【「緑の循環システムの構築」～森林・林業の活性化～】

本町の森林の多くは本格的な利用期を迎えており、「白鷹町森林とつながる暮らしビジョン」に基づき、伐って、使って植

え、そして育てる「緑の循環システム」の構築に向けた取り組みを進めています。また、機械化、省力化等による森林施業の低コスト化を図るため、新たな路網整備を行うなど、町の森林資源の活用と川上から川



【完成した「白鷹の杜たかやま」】

ラーやストーブの導入による自然エネルギーの地産地消を図るなど、自然環境との共生にも寄与しています。本施設は、今後の地域コミュニティのさらなる活性化においても期待されています。



【事務室内には薪ストーブの設置】

下までを網羅する森林・林業の再生に取り組んでいきます。

令和五年四月には、新たな地域拠点施設として鷹山地区拠点施設「白鷹の杜（はくたか）の杜」がオープンしました。同施設は、地元産の杉材を活用した木造施設であり、薪ボイ

【地域の担い手の育成】

人口減少、グローバル化により、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。各分野における担い手不足に対応するため、マルチワークなど新しい働き方を求めるニーズ層をはじめ、U・Iターン希望移住者の受け皿となる地域人材ベースキャンブの設立に向けた準備を行い、将来的な担い手、人材の確保に寄与する取り組みを実施しています。

本年十月には、マルチワーク体験ツアーを実施しました。美しい自然に囲まれた町で、地域に根差した



【マルチワーク体験ツアーの実施】

働き方を体験し、〃白鷹町での多様な働き方〃という選択肢を知っていただく機会となりました。今後、地域や事業者が必要とされる外部人材（マルチワーカー）の受け入れとともに、人材育成、地域の担い手の確保、外部人材の新たな視点やアイデアを活用した地域の活性化、地域を先導していく地域人材の育成を図る事業展開を目指していきます。

【おわりに】

本年四月には赤湯―荒砥駅間を結ぶ長井線が全線開通百周年を迎え、始発駅の荒砥駅では盛大なイベントが開催されました。時代の移り変わりとともに、形を変え運行してきた鉄道ですが、長い間、地域住民を支え、見守ってきた鉄道でもあります。イベントでは、これまでの歴史や思いが、次の世代に引き継がれ、そのバトンが手渡されました。

そのような中で私たちの暮らす社会に目を向けると、大きな転換期でもあります。世界的な流れとして、気候変動の問題や人口問題などへの対応が急務となっており、新型コロナウイルス感染症との戦いで疲弊した経済の立て直し、国際情勢の変化による原材料価格の上昇やエネルギー・食料価格の高騰など、様々な課題に直面しています。一方で、ビックデータ、AIなどのデジタル

技術の進展により、地域の個性を生かしながら全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会の実現に向けた取り組みが進んでいます。町では、今後も人と人とのつながりが生み出す共創のまちづくりの理念の下、「人、そして地域がつながり輝き続ける潤いのまち」の実現に向け、暮らし・社会・経済が統合する持続可能なまちづくりを目指していきます。



【フラワー長井線100周年記念特別列車の運行】

飯 豊 町

いいで未来カフェ みんなの想いを形に！

町内在住や町内に勤務する若者たちが集まり、町の資源やアイデアを生かして「町のありたい未来像」のためにできることや課題解決を考える「いいで未来カフェ」は令和三年度にスタートし、ワークショップなどを重ねてきました。令和四年度は各プロジェクト始動の年。想いを形にする一歩を踏み出しました。

はじめの一步 ―活動の軌跡―

いいで未来カフェから生まれたプロジェクトが少しずつ動き出した令和四年度。メンバーの活動を一部ご紹介します。

◆居場所づくりの視察

空き家をリノベーションし、世代や性別を超えてみんなが気軽に集い、つながりを持つことができる地域の拠点・居場所づくりを目指すチームで、先行事例の視察として小国町を訪れました。酒蔵を改装してカフェ&コワーキングスペースにした「カモスク」や、納屋を改装したカフェ「Na è baco（ナエバコ）」を視察。自



いいで未来カフェメンバーによるワークショップ

分達が作りた
い場所のイメ
ージ作り、備
えたい機能を
確認すること
ができた。

◆イベントの プレ体験

「人とのつ
ながり」を飯
豊町の魅力の
一つとして挙
げ、世代間の
交流を生むよ
うなイベント
を実施するこ
とで春夏秋冬
を楽しむ、郷
土愛や「生き
る力」を育む
ことを目指す
イベントチー

ムでは、まずはメンバー間で朝食会を開催。仕事前に集まり、自然の中でゆったりとしたひとときを過ごして仕事に向かう英気を養いました。その他、まずは自分達で楽しみながらアクションを起こすべく計画中です。

◆中津川雪まつりでの森林ライトアップ&炎の回廊づく

飯豊町の豊かな自然を大きな資源ととらえ、森林空間を活用し付加価値をつけたアウトドア体験を提供することで森林を楽しむ、得られる財源も活用しながら森林保全や整備を目指すアウト



森林ライトアップ&炎の回廊

ドアチームでは、二月二十五日の中津川雪まつりにて、森林の一部を色とりどりの明かりでライトアップする企画を実施。あべあいこさんの演奏も相まって、訪れた方に美しく幻想的な空間を提供しました。また、イベントチームではメイン会場付近にかまぐらを設置したり、地域内を炎の回廊でつないだりと、地域の皆さんといっしょにイベントを盛り上げました。地域や訪れた皆さんに喜んでいただき、充実した活動になりました。

参加者自身が楽しんだり、ワクワクできることが活動を継続するための大切なポイントです。いいで未来カフェでは、今年度も仲間同士で語り合いながら、様々な企画を検討します。

人にも環境にも優しい持続型社会を担う人材を育成

飯豊町に電気自動車、自動運転の教育・研究に特化した電動モビリティシステム専門職業学が開学しました

学校法人赤門学院（國分活妙理事長）が申請していた電動モビリティシステム専門職業大学が、文部科学省から



左から、後藤幸平飯豊町長、学校法人赤門学院
國分活妙理事長、清水浩学長

設置認可され、令和五年四月、本町に電気自動車、自動運転の教育・研究に特化した、日本初となる専門職大学が開学しました。

主要企業の撤退を契機に始まった「飯豊電池バレー構想」は、始動から八年。

撤退後の跡地には、飯豊町起業支援施設が設置され、先端技術を活用し、電気自動車にも使われるリチウムイオン電池の研究開発が行われています。このたび、電気自動車や自動運転などについて専門的な教育と研究を行う、電動モビリティシステム専門職大学が、文部科学省から正式に設置認可され、令和五年四月に開学しました。開学前の記者会見では、同大学を運営する学校法人赤

門学院國分理事長が「東北初の専門職大学が開学する。認可されるまでの道のりは困難なものであったが、町や市民の皆さん、各企業の支援のおかげでこの日を迎えられた。乗り物好きな若者が集う学び舎となることを期待している」とあいさつしました。

後藤町長は「全国から学生たちが高等教育を受けるため、またさまざまな可能性を求めて飯豊町を訪れ、学び、育っていく。この大学は地域の皆さんとともにつくられていくものと考えている。住民と学生たちとのコミュニティが生まれ、農村文化と先端科学が連携する場所が生まれたことをとてもうれしく思う」と喜びを語りました。

学長の清水浩慶應義塾大学名誉教授は、同大学のカリキュラム（教育課程）について「電池、モーター（電動機）・インバータ（電源回路）、車体、自動運転を総合的に学ぶ電気自動システム工学部・電気自動車システム工学科が設置され、一年生からの研究室所属とインターシップ（臨地実務実習）が特徴。卒業生が、自動車産業をけん引する経営者にまで上り詰める人材となることを目指す」と説明しました。

同大学の開学は本町が目指している「自然・文化と最先端科学技術の融合するまちづくり」を具現化し、「日本で最も美しい村」の持続的発展の一助となることでしよう。

二〇二三年度 置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も確実に人口が減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域の安全・安心や伝統・文化の維持存続が益々懸念されます。そして、このような人口減少の要因の一つに、高校生の進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。こうした状況下において二年後に進学・就職を迎える高校二年生が、地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路を選ぶにしても非常に大事なことです。

以上のような趣旨から、「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第六回小論文コンテスト」を、高校二年生を対象に実施いたしました。テーマは「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」です。七校から総数八十五名の応募があり、喜んでおります。応募された生徒の皆さんとご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。

小論文を読みますと、資料編を活用しあるいは探究学習や自分の体験や知見を基にして、この地域の未来のあり方を様々な視点から提案し、また自分の生き方を模索しており、趣旨に沿った小論文をまとめてくれました。応募者にとっては、この小論文に取り組んだ経験が将来必ずどこかで役立つ

ものと確信しています。

この小冊子は、各小論文を六名の委員により審査を行った結果、優れた小論文とされた最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点を収録したものです。高校生や地域の方々に広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思います。

令和五年十月十六日

高校生小論文コンテスト実行委員会

二〇二三テーマ

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」

優秀小論文

最優秀賞 山形県立小国高等学校 二年 飯田 晴基
優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

米沢中央高等学校 二年 遠藤 結依

米沢商工会議所会頭賞 二年 長南 穂実

米沢中央高等学校 二年 佐藤 三咲

長井商工会議所会頭賞 二年 鈴木 心美

山形県立長井高等学校 二年 鈴木 心美

米沢信用金庫理事長賞

山形県立長井高等学校 二年 鈴木 心美

住み続けられる町にするために

山形県立小国高等学校 二年

飯田晴基

私の住む小国町でも、人口減少が進んでいる。先月の町報によると、六月末現在の人口は七千人を切った。さらに資料によれば、二〇四五年には現在の人口の半分以下になる。このままでは、小国町は衰退の一途を辿る。持続可能な町、つまり住み続けられる町にするために、どうしたら良いのか。

そのためには、若者が自分の町を好きになることが鍵になると考える。好きになるためには、地域と深く向き合う必要がある。

私は、小国高校入学後、探究学習や放課後活動などで、地域の魅力的な大人と関わってきた。今まで知らなかった小国町の魅力に触れ、目から鱗が落ちた。特

に、永年守り続けられているマタギ文化を知った時には、自然や生き物を大切にする尊い文化だと衝撃に近い感動を覚えた。その体験から、私はマタギ文化について個別に学び続けた。

今年の春から、私は小国町に人を呼び込む活動にも力を注ぎ始めた。小国町と小国高校では、高校魅力化の一環として、地域みらい留学という制度を整え、全国各地から生徒を募集している。留学希望者と小国町をオンラインで繋いだ説明会もある。その中で、私の今までの経験やマタギ文化に関する学び、小国町や小国高校の魅力を発信している。参加者からは「面白い文化だ」「自然が美しい」など興味を持って頂いた。他にも、マイプロジェクトとしてマタギ文化をPRする活動も行っている。地元のマタギの方々も応援してくれ、多くの人との繋がりができた。

七月には、今年もわが校主催の全国小規模校サミットを開催した。全国の小規模校の生徒が集まり、地域の魅力や課題について話し合うのがサミットだ。参加したみんなが、自分の町の魅力や課題を理解していて、自分の町への関心が高いことが感じられる。住む町は

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

違っていても、町の活性化や持続可能な町づくりのヒントをお互いに得られた。そこから、私の行動計画がより一層明確になり、町に貢献したいという気持ちが強まった。

八月には、サミットで知り合った仲間と、SNSでお互いの町の魅力について意見を交換した。その仲間が、来年、小国町を訪問してくれるという。他にも、狩猟免許取得を考えている山形大学の学生に、マタギ文化を紹介したところ、深い興味を示してくれた。

今、私は、私の取り組みが少しずつ広がっていく喜びを感じている。中学時代の私は、それほど地元を好きではなかったが、地域の魅力や課題を知り、発信することで地元を大好きになった。そして、私と関わってくれる若者が、昔の私と同様に、自分の町の魅力に改めて気づけたなら、地元を大好きになり、住み続けようと思うだろう。持続可能な社会づくりの動きが、日本各地に広がるはずだ。私はこの活動を続け、地域に貢献したい。私の未来はやりたいことで溢れている。

未来のふるさとを守るために

米沢中央高等学校 二年

遠藤 結依

私の夢は、保健師になることだ。そして保健師になって医療という面から自分が生まれ育った高畠町をサポートしたいと思っている。

今、高畠町では人口が減少し続けている。また、人口減少とともに少子高齢化も進行し、このままでは高畠町の魅力や活気が無くなってしまうだろう。そこで、子育てのしやすさ、医療の支援が充実した町づくりを目標にすることが重要だと考える。

人口減少は高畠町だけではなく、全国で問題視されている。高畠町では、二〇二〇年と二〇四五年の人口

変化率は六七パーセントと推定されている。まず大きな要因として考えられるのは、就職・進学などの目的で県外に出た若い世代がそのあと地元に戻ってこないことだ。なぜ戻ってこないかを考えた時私は、地元に戻らしやすさや子育てに關しての支援が少ないのではないかと思った。就職・進学で県外に出たとしても、結婚して子育てをする際に地元に戻りたくなるような医療的支援をすれば、若い世代は戻ってきてくれるのではないだろうか。

例えば、「共働き子育てしやすい街」では千葉県松戸市が第一位であり、松戸市では子育てするにあたって様々な魅力があった。子育て世帯も多く住んでいるが、保育所の定員には常に余裕があり、病児・病後児保育施設の定員充実にも力を入れている地域だ。さらに、妊婦検診時に使えるタクシー送迎の助成、託児機能付きのコワーキングスペースなど子育てへのストレス緩和の実施がされている。また、福岡県北九州市では「待機児童〇人」の実現、「二四時間三六五身体制の小児救急医療」など医療面でも子育ての支援制度が

とても充実している。このように、保育所の定員に余裕があったり、常に対応してくれる医療体制など子育てに少しでも余裕が持てるような制度があれば若い世代は戻ってくるのではないか。そうすれば人口減少にも歯止めがかかると私は思う。

そこで、高畠町では保育所の増加、医療機関による小児救急医療の二十四時間受け入れ体制をとることを提案する。保育所の増加については、待機児童がいなくなるように十分な保育所と人手を増やしたい。また、救急医療の受け入れ体制については都心よりも人手が少ないので山形県内の主要病院から始めたい。これらの支援をする事で、ＩターンやＵターンを促進できるだろう。

私はこの小論文を通して、自分でも町のイベントや行事の活気が無くなっている事に気付いた。おじいちゃんやおばあちゃんが寂しそうに昔と違うということを話している時には、悲しい顔をさせたくないと強く思った。昔のように活気ある町に戻したいと思っている。

活気あふれる未来のために

米沢中央高等学校 二年

長 南 穂 実
ちよう なん ほ のみ

現在、私の住む高畠町は少子高齢化が進み、出生数は十四年連続減少、二〇二二年度の出生数は百人を下回るなど、深刻化してきている。全国的に少子高齢化が進む中で、どうやって若い世代を定住化させるかが鍵になってくると考える。そして、この状況を変え、持続可能な地域とするために、進学・就職等で県外に出た若者が子育てをするために戻ってきたいと思える環境を整備し、発信することが重要であると考えてる。

高畠町では、若者の転出によって二〇四五年の人口が二〇二〇年と比べて三十三%減少すると推計されている。都市部に会社や学校が集中しているため、進学・就職等で県外に転出する若者が増加する。それに

よって、置賜に残る若者・子どもを産む世代が減少し、少子高齢化につながる。しかし、資料から、山形県の正規雇用の割合は全国トップ水準で共働き率は全国二位、育児をしながら働いている女性の割合は全国四位など、全国平均を上回り、働きやすい環境が整っていることや待機児童ゼロを令和二年、三年と二年連続で達成しており、子育てしやすい県であることがわかる。このような環境があるのにもかかわらず若者の転出が多くなるのは、若者が地域についてよく考えず、良い点も悪い点も現状を把握していないということが原因だと推測した。

実際に私も、山形県がこんなに働きやすい環境であることを知らなかった。だからこそ、もっとたくさん地域について考える時間、活動を設けるべきであると思った。

そこで、学生と子育て世代の地域交流を提案する。赤ちゃんから学生、子育て世代が集まり、市町の魅力や改善点などの話し合いを通してコミュニケーションをとったり、置賜地区には子育てに対するどんな制度

長井商工会議所会頭賞

置賜の人口流出を防ぐために

山形県立長井高等学校 二年

佐藤 三咲

や施設があるのかを知る機会になるような活動である。また、学生が小さな子供と触れ合うことによって結婚、子育てに対する関心を高めることもでき、晩婚化や晩産化の改善効果が期待できると考える。そして、交流を通して学生が自分の将来について考える機会になったり、進学で県外に出ても結婚や妊娠を機に戻って来てくれる若者が増えることも期待できる。

このように、世代を超えて交流することによって、新しいものを生み出しながら良いものを継承していく活動がこれからの時代には必要になってくるのではないかと考える。

人口減少が進む上に、少子高齢化も進み、若者減少が深刻化するこの置賜地区で、地域住民の交流を通して情報発信をすることで、若者転出の減少、転入の増加につながり、持続可能な地域に近づくだらう。私は将来助産師になって、この土地で出産・子育てに励む人々の支えになり、地域に貢献できるように頑張っていきたい。

私が住む置賜地域の人口は、二十五年後には三十四パーセント減少すると推定されている。資料2では置賜地域だけでなく山形県全体の若年層の転出超過が人口減少の大きな要因になってくるのがわかる。では、どうすれば置賜から人口流出を防ぐことができるのだろうか。私は食文化の活性化こそが人口減少対策に役立つと考えている。

私は今年度、探究学習の一環で長井市の特産品である行者菜を用いた「行者菜プリン」をグループで開発し、「長井市の名物グルメつくりコンテスト」にレシビを応募した。SDGsの「働きがいも経済成長も」という観点から、地元の名産品への誇りと愛着を地域

の人を感じてもらうことや、県内外への情報発信を通じて経済の活性化を図ることを目的とした。そして、たくさんの人に満足してもらうために、特産品を選ぶことに工夫を凝らした。行者菜には豊富な栄養素が含まれており、生活習慣病の予防や疲労回復に効果がある。また、プリンは世代を問わず人気のスイーツであるため、プリンに加工することで老若男女すべての方に楽しんでもらい、行者菜を知らなかった人もまた食べたくなり、長井市に足を運び魅力を認知してもらうことができるという効果を期待して作成した。

また、行者菜プリンに関わらず、多くの人が名物料理に携わり、地域が盛り上がるのが人口減少防止にも役立つのではないかと考える。他県を例にすると、青森県深浦町では「マグロステーキ丼」で町おこしをした話を聞いたことがある。地元の名産品であるマグロをステーキにして地域の各飲食店で販売するというものだが、私が興味深く感じた点は「それぞれの飲食店で食べられるものが違う」ということであった。飲食店側は店の個性として味つけや副菜に工夫を凝らし

ており、訪れた人は店舗ごとの差違を楽しみながら地域の目玉料理を楽しむことができる。そして飲食店の側でもお仕着せの町おこしメニューではなく、自分たちの自慢の料理として主体的に町おこしに関わっている印象を受けた。

私は外食の際、個人で営業している店ではなく、どうしてもチェーン店を選ぶことが多かった。若者にとって個人店は馴染みがなく、「わざわざ知らない店に行く必要はない」と考える人も多いのではないだろうか。個人店の減少は地域の方にとっても寂しいだけでなく、地域経済としても大きな損失である。そのためにも、「若者がわざわざ行きたくなる個人店」を地域一丸となつてつくり上げることが必要だと考える。その一つが行者菜プリンであり、これからの地域との協働で行う食文化の活性化である。今後、人口減少が進む置賜地域の人たちが誇りを持つことができれば、経済成長を感じられたりするような、夢と希望の持てる地域になるようにさまざまな活動に参加していきたい。

米沢信用金庫理事長賞

地元で働くきっかけづくり

山形県立長井高等学校 二年

鈴木 木心美

「オープンスクールで多くの大学を見てくるように。」そんな言葉と共に高校生活二度目の夏休みが幕を開けた。

皆それぞれ志望する学校について調べ、赴き、悩む。そして気がつく、するりと志望校を言えるようになっていく。学部は、学科は、といった質問には悩みながらもはつきりと口にするが、職業を聞かれた途端ひどく曖昧なものになる。将来どのような職に就きたいか、何に興味があるかなどを答えられる人は多いのではない。しかし、具体的にどの企業で、どの地域でとなると口を開くことができなくなる。その理由は、選択肢に溢れていて決められないのではない。その仕

事ができる場所を知らないからではないだろうか。

資料2から、山形県では県外へ進学する人数が約三分の二であることが読み取れる。そして、その人達の大部分が地元に戻ることは難しいだろう。しかし、地元に戻るきっかけをつくることならできるのではないだろうか。現在、置賜地区内の実業高校では、地元の企業三十社以上による企業説明会が実施されている。それにより多くの企業の仕事や魅力を知ることができ。また、インターンシップにより自分の興味のある企業を実際に体験することもできる。だが、進学を目指す高校には、地元の企業について知る機会がないのが現状だ。

そのため、卒業後の進路を問わず、高校生は地元の企業について広く知る機会を設けてはどうだろうか。置賜地区には一万以上の事業所がある。その中には、各々が興味を持つ分野の職業もあるだろう。しかし、そのことを知らずに他県で仕事を決めてしまうかもしれない。もし、高校生の時点で地元の企業の存在を知っていれば、県外の学校を卒業後、Uターンという形を

取り地元の企業に就職できるだろう。職業の選択肢に加えられるだけでも数年後地元に戻る可能性が高くなる。ちよつとした情報であつても、その仕事内容に興味・関心がある人にとっては、その企業を知つて調べるときつかけになる。地方から都会へ出る理由として、仕事が多く選択肢が広いから、というものが挙げられる。確かに地方には有名な企業は多くないだろう。しかし、働き甲斐のある企業ならば地方でも候補を見つけることができる。

置賜地区においてこれからの未来が持続可能でより良い地域であり続けるためには、地元にある企業を高校生のうちから知っておき、職業選択の一つとして考えることが必要である。そして、分野に関わらずに調べたことを他者と共有し合い、広げていくことが大切だ。そうすれば、置賜地区を支える若者が増え、地域経済の活性化や雇用機会の創出など地域全体の成長につながるだろう。

第六回小論文コンテスト表彰式

「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第六回小論文コンテスト」の表彰式が十月二十八日（土）、ホテルモントビユー米沢で行われました。今回は、平山英三米沢有為会会長や米沢興讓館高校と小国高校の校長先生、米沢支部役員等が参加して開催されました。

表彰式では、まず小論文コンテスト実行委員長の横井博が審査講評も含めて挨拶しました。その中で、「応募者は七校から八十五名であつた、その最終審査は六名の審査委員の審査結果が反映されたものであり、受賞者十名の平均点が七十九点で僅差の順位であつた」と応募・審査状況に触れ、「このコンテストのねらいは、人口減少社会の中でこれから地域の担い手の当事者となる高校生二年生が地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることにあるが、それに合致する優れた小論文が多数あり、コンテストのねらいは達成された」と振り返りました。

また、今まで小国高校から六回のコンテストの中で五回もの最優秀賞が出ていることについての理由として、小国高校の取組の強みとそこから「地域づくりのあり方



平山英三会長挨拶



横井博実行委員長講評

と自分の生きるスタンスが一体的に理解されること」ではないか説明した他、優秀賞の四小論文の提案内容についてどのような点が優れていたかについて述べました。そして、これからの社会人の生活や仕事で直面する課題解決への対応のために、小論文で培った提案力や主体性を鍛え続けてほしい、と結びました。

審査の結果、最優秀賞一名、優秀賞四名、入選五名が選ばれましたが、平山米沢有為会会長から各受賞者に賞状と副賞が授与されました。

続いて、平山会長が祝辞を述べ、「今回初めて応募していただいた高校がありこれで置賜地区十四校全てが一度は応募したことになるが、回を重ねるごとに課題の論点が適切に把握されてきている。少子化という言葉は知っていたがこの課題に取り組んで初めて地域の実情を知



平山英三会長より表彰状授与

って驚いたという声も多く、地元の現状と自身の将来を考えるきっかけになっていることにこのコンテストの意義を感じている、さらに問題意識を磨き続けてほしい」と激励しました。

十名の小論文は、『優秀小論文集』として発行され、関係者に配付されました。



受賞者記念写真

審
查
講
評

第六回の小論文コンテストには、七校八十五名の方々が応募してくださいました。今回初めて応募してくださいました高校があり、これで置賜地区十四高校すべてが一度は応募してくださいましたことになります。

このコンテスタのそもそもの原点は、少子化の要因の一つが「若者流出」にあり、当事者である生徒たち本人がこの問題をどう受け止めているのかを聞きたい、この問題に取り組んでもらいたいというものでした。国全体の少子化と、進学先や就職先が県内では限られているため相当数の若者が県外に出ざるを得ないことが、人口減少や所によつては過疎化に繋がっていくことが共通理解になっていきます。

この人口減少を食い止めるための方策としてはＵターンの促進があげられ、Ｕターンを推進する方策としては、郷里の魅力の発信や住みやすくして戻ってきてもらうための改善策の提言が主になっています。しかし、問題点の認識や方策の幅や深さには、その生徒が置かれた状況により大きな違いが出ているように思いました。

資料編のデータやSNSを用いれば、問題点が把握でき、提言にまとめることができます。これに、自分の考え方や独自の創意工夫を盛り込んでいきます。なかでも、探求学習での考察とインターシッパやボランティア活動の実体験からの発想は、説得力や深みが感じられ、自らの関り方が具体的であり、自分の将来をも踏まえて実感をもつて記述されているように思いました。

「少子化という言葉は知っていたが、この課題に取り組んで初めて地域の実情を知って驚いた」という声も多く、このように地元の現状を知り、自身の将来を考えるきっかけになっていることに、小論文コンテストの意義を感じます。続けて取り組んでいきたいと思います。

審査は応募要領に記した五つの観点から行っていますが、その一つである「表現力」は「字は大きく、鮮明に書く」ことを求めており、大変きれいで読みやすいものが多かったと思います。中には文字の大きさと濃さが足りず、読みにくいものや誤字も見受けられましたので一層の努力をお願いします。

高校生にとって「地域の未来と自分の生き方を考える」という課題に取り組むことは大きな意義があります。学校側においても探究学習等を通して、論文の書き方も含めご指導いただければありがたいと思います。

置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」第六回小論文コンテスト 募集要項

一. 趣 旨

少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか。二年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。当コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い、実施するものです。

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」

二. テーマ 三. 対象者

四. 応募規程

①募集要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめください。また、各自の題名を付けてください。

②文字数は一二〇〇字以内（四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内）

③原稿用紙は縦書きに、一行目に題名、二行目に学校名・氏名、三行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数えます。

④使用鉛筆はHB又はBを用い、字は大きく鮮明に書いてください。

①観察力 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。

五. 審査の観点

六、応募先
七、募集締切

八、表彰

九、表彰式

十、審査委員長

十一、主催・共催

十二、後援・協賛

②提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。

③主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。

④論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。

⑤表現力 誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えている文章であるか。

この五つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点を評価します。

各学校の担当者まで

各学校で指定する期日まで

各学校から米沢有為会米沢支部事務局への提出締切日 九月五日(火)「必着」

最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点

十月二十八日(土) 米沢市内ホテルにて

米沢有為会会長 平山英三

公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会

置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会

米沢信用金庫 NCV株式会社ニューメディア

米沢商工会議所 長井商工会議所



(注) この募集要項・資料編や今までの優秀論文を右のQRコードからもご覧になれます。

資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)と、令和3～4年の県外転入・転出状況(資料2)の二つの視点から見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020 年	2025 年	2035 年	2045 年	人口変化率 2045/2020 (%)
山形県	1,072,473	1,015,910	897,075	768,490	7 2 . 7
米沢市	81,986	77,483	67,817	57,720	7 0 . 4
長井市	25,857	23,918	20,160	16,377	6 3 . 3
南陽市	30,715	29,017	25,494	21,762	7 0 . 9
高畠町	22,546	21,131	18,214	15,115	6 7 . 0
川西町	14,228	12,783	10,148	7,655	5 3 . 8
小国町	6,931	6,059	4,517	3,220	4 6 . 5
白鷹町	13,030	11,918	9,839	7,797	5 9 . 8
飯豊町	6,618	5,956	4,755	3,620	5 4 . 7
置 賜	201,911	188,265	160,944	133,265	6 6 . 0

出典：国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2045年の人口が2020年と比較して34%減少すると推計されています。

資料2 山形県（置賜）の県外転入・転出状況（令和3年10月～令和4年9月）

※若年層とは15～24歳

山形県の県外転入(置賜) [a]		山形県の県外転出(置賜) [b]		山形県の転出超過(置賜) [b-a]	
	若年層(置賜)		若年層(置賜)		若年層(置賜)
14,484 (2,646)	4,395 (779)	17,705 (3,155)	7,086 (1,352)	3,221 (509)	2,691 (573)

出典：令和4年山形県の人口と世帯数

令和3年～令和4年の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,221(509)人の転出超過です。

また、山形県(置賜)の若年層(15～24歳)の転出超過は2,691(573)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因の一つになっています。

資料3 山形県の高校卒業者の県外への進学就職状況

	卒業者数	大学等進学者 数(うち県外)	専修学校進学者 数(うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の 割合
令和3年度	9,381	4,355 (3,142)	1,858 (1,122)	2,566 (513)	8,779 (4,777)	54.4%
令和4年度	8,998	4,450 (3,251)	1,726 (1,030)	2,272 (449)	8,448 (4,730)	56.0%

出典：令和4年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果について

令和4年度の高卒卒業者のうち、およそ56%が進学や就職で県外に出ています。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和4年度置賜地域の概況(令和4年7月)』があります。

資料 [r40kitamagaikyo.pdf \(pref.yamagata.jp\)](https://www.r40kitamagaikyo.jp/pref.yamagata.jp)

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「山形県の暮らし」から見てみましょう。

資料 <https://yamagata-iju.jp/pref/number.pdf>

次に、日本全体の「少子化の現状」と「地方からの人口流出の背景」を国の白書(いずれも URL)から見てみましょう。これらの資料は少し難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

(1) 日本の「少子化の現状」

内閣府資料 『少子化対策白書(平成29年度)』第1部少子化の状況及び少子化への対処施策の概況 第1章少子化をめぐる現状
https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2017/29webgaiyoh/html/gb1_s1-1.html

(2) 日本の「地方からの人口流出の背景」

総務省資料 『情報通信白書(平成27年度)』第2部 ICTが拓く未来社会／第3章地域の未来と ICT／第1節地域の企業と ICT／
1 地域経済の現状と ICTの可能性／「地方からの人口流出と東京圏への集中」 「人口流出の背景」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc231120.html>

■ 人口減少の一因である「若者流出」等の状況を統計データで見ましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。それらの取組を紹介しましょう。

資料4

置賜圏域の将来像・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圏を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜3市5町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取組を行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2市5町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化(医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災)、②結びつきやネットワークの強化(交通、移住・定住・交流)、③圏域マネジメント能力の強化(職員等の交流)の3つの政策分野で取組を行う。

出典：米沢市 「広報よねざわ」 2019.5.1

資料5

若者定着・若者帰郷に向けた県内の諸取組の紹介

【事例1】 山形県と大学等との UI ターン就職促進協定 28大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大

学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

＜協定締結大学 令和4年11月30日現在＞ 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学

出典：山形県雇用・産業人材育成課

【事例2】 やまがた就職促進奨学金返還支援事業の実施

大学等に在学中の方を対象として、県と市町村が連携して奨学金の返還の一部を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件や手続き等については、山形県の「やまがた就職促進奨学金返還支援事業」をご覧ください。

出典：山形県産業創造振興課

【事例3】 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関［米沢市・南陽市・高畠町・川西町］やハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校3年生を対象）や企業説明会（高校2年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施している。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校1年生を対象とした職業体験会（WAKU WAKU WORK）の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。

【事例4】 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

【事例5】 働く人の様子・思いなどをSNSで発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL: [米沢商工会議所 \(ginzaikakuho-vamagata.info\)](http://ginzaikakuho-vamagata.info)] プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後のUターン、他地域からのIターン事例など幅広い情報をインスタグラムや動画などで発信している。

＜米沢有為会からの一年早めの情報＞・・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

① 3つのタイプの奨学金（貸与型：女子向け住居費補助奨学金2万円と一般貸費奨学金4万円、減免型：地元若者定着奨学金4万円条件を満たせば2万円減免 いずれも無利子）と

② 東京と仙台に男子学生寮（平日朝夕2食付き、個室、月6.5万円程度）を用意しています。

今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会 HP で（QRコードからどうぞ！）



会員の広場

「句会・漆の実」の活動

小山泰・報

今年の夏は大変な猛暑でありました。しかし、秋になれば一転して爽やかな風が吹き渡ります。四季の変化こそは実に素晴らしい叙情詩です。日々迂闊に見過ごせない自然の変わりようです。それに伴った生活、行事、習慣の変化、心の屈折、一瞬一瞬のひらめきを逃してはならない、そんな思いが古来名句として残りました。「句会・漆の実」の各位も遅まきながら気付いたといえます。月一回の定例会に、いそいそと参加し互いの句境に思いを寄せるのです。新橋駅前の喫茶店ルノアールが東京都心ながら廉価に借りられるのは有難いことです。願わくば同好の方の加入を期待している次第であります。

今年の会員各位の作品は次の通りでした。月々「テーマ句一句、雑詠句四句の合計五句を持ち寄っています。

そこからの抜粋です。

(氏名・五十音順)

太田 甘美

肌ざはり稚児によく似た草を摘む
埃立つ父のレコード帰省の夜

ボールペン一本置きあり夏座敷
絵馬の文字いづれも楷書梅真白

片山 丹波

鯉のぼり時に親子の絡まれり
悠久の北の磁石や鳥雲に

足跡の一つだになく耕せり
万愚節茫と坐しをる喫煙者

小山八州史

蜂をよぶ花の密謀野に満つる
起きぬ子をつつき朝寝をもらひけり

風止みて地に尾を着けり鯉のぼり
行く人の二の腕白き炎暑かな

佐野 眞

小六月深鍋ひとつ焦がしけり
早春や一拍おきて点くマツチ

精霊馬花一つ添へ埋めけり
草摘むや饒舌となる老姉妹

濱田 扇風

梅白し姉の歩幅のまたせまく
郷里の土落とし筈真白し

草摘むや饒舌となる老姉妹
梅白し姉の歩幅のまたせまく

松原 薫子

郷里の土落とし筈真白し

連絡先 小山泰・〇四八―九三二―八二〇四

郷土の本紹介（R4・10～R5・9）

資料提供 ― 市立米沢図書館

101

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
1	東北の古本屋 増補新 版	折付 桂子／著	文学通信	K024.8	2022・10	現在、東北地方で開店している古本屋を写真、地図を用いて紹介。また、東日本大震災からの復興などから、減少しつつある東北の古本屋業界の「今」を伝える。
2	歴史を拓いた明治のドレス	吉原 康和／著	ジー・ピー	K210.0	2022・10	明治維新後、礼服の洋装化が行われた。明治天皇の後、美子皇后が着ていた大礼服の修復・研究・復元プロジェクトの軌跡とドレスの歴史を描いた一書。
3	戦国大名と家臣団の絵事典	小和田哲男／監修	成美堂出版	K210.4	2022・12	全国各地の戦国大名とその主要な家臣、姫君などをデフォルメ化した総てで紹介した一冊。人物の相関関係なども分かりやすい事典。
4	戦国大変 決断を迫られた武将たち	乃至 政彦／著	日本ビジネスプレス	K210.4	2023・6	戦国期の通説を、史料を元に新しい視点から考察した研究本。上杉謙信の父・長尾為景から、直江状のことまで興味深い一書。
5	謙信×信長 手取川合戦の真実	乃至 政彦／著	PHP研究所	K210.4	2023・5	上杉謙信軍と織田信長軍が加賀の手取川で激突したとされる手取川合戦。史料に乏しく美態不明な点の多いこの合戦について、謙信側、信長側それぞれの立場から読み解く。
6	戦国の城攻めと忍び 防・上杉・豊臣の攻	戦国の忍びを考え る実行委員会／編 埼玉県立嵐山史跡 の博物館／編	吉川弘文館	K210.4	2023・6	戦国時代の忍びはどのような働きをしたのか。出土した遺物や文献史料、城攻めが行われたとされる地域の図などから、研究をまとめた一書。高島邦仁「上杉謙信の『夜わが鍛錬之者』から探る羽生城の忍び」を収録。
7	没後四〇〇年記念特別 展上杉景勝と関ヶ原 合戦	米沢市上杉博物 館／編	米沢市上杉博 物館	K210.4	2023・4	2023年4月22日から6月25日まで、米沢市上杉博物館で開催された没後四〇〇年記念特別展「上杉景勝と関ヶ原合戦」展の図録。
8	長井市史 通史第3巻	長井市史編集委 員会／編集	長井市	K212.5	2023・3	明治維新から太平洋戦争まで、長井市の政治、社会、文化面を編纂した通史。
9	戦国武将列伝 東北編	遠藤 ゆり子・ 英文／編	戎光祥出版	K281.0	2023・4	戦国期の東北及び蝦夷で活躍した武将の最新の研究結果により判明した人物像に迫る。伊達植宗から政宗までの伊達家四代、米沢出身とされる片倉景綱など紹介。
10	伊達政宗と茶の湯 奥 州最強の家臣団を率い た文化人の基層	生形 貴重／著	教育評論社	K289.1	2023・5	米沢に生まれ、仙台藩初代藩主となった伊達政宗。「茶の湯」という側面から、文化人として、外交を担う当主としての実像に迫る。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
11	上杉謙信の崇敬と祭祀	加澤 昌人／著	清文堂出版	K289・1	2023・3	史料に基づいた、上杉謙信と上杉家歴代藩主の崇敬と祭祀についての研究書。
12	長尾為景	黒田 基樹／編	戎光祥出版	K289・1	2023・3	上杉謙信の父親にあたる長尾為景。為景の地位、生涯に関する15本の最新研究を収録した一書。
13	山形のまちとイザベラ・バード バードと「時間と空間」を共有し散策しよう	渋谷 光夫／著	霞城出版	K291・0	2023・1	イギリスの探検家・紀行作家であるイザベラ・バードが訪れたとされる山形の町なみについて、写真、地図などの史料から語る一冊。
14	東北学／忘れられた東北	赤坂 憲雄／著	岩波書店	K291・2	2023・6	2009年に講談社学術文庫から刊行された本の再刊。「東北学」を捉えた記念碑的著作。
15	非出世系県庁マンのブルース	高 啓／著	高安書房	K318・2	2022・10	山形県庁に勤務していた著者による、自分史。置賜文化ホールを作る際の裏話「米沢の能舞台はなぜ空気に浮上するのか」収録。
16	市技は「けん玉」山形県長井市 人も地域も元気になる	長井けん玉のふりプロジェク ト実行委員会／編	ほんの木	K318・6	2023・3	日本の伝統的玩具であり、競技大会もあるけん玉。けん玉で町を盛り上げる活動を行っている長井市に注目し、その取り組みを紹介する。
17	「日本型」育英事業の思想 尚武と錬成の近代	布施 賢治／著	日本経済評論社	K373・4	2022・10	米沢、山形の育英事業を事例に、日本の近代教育・人材育成について考える。著者は米沢女子短期大学の教授。
18	50年、理想の精神医療を求めて	佐藤 忠宏／著	幻冬舎	K493・7	2023・3	南陽市出身で精神科医の著者が今後の日本、そして地方の精神医療がどうなるべきなのか、自伝的に語った一冊。
19	「日本の酒蔵」のひみつ 名酒の歴史とこだわりのわかる本 もつと味わう日本酒入門	酒蔵のひみつ研究会／著	メイツユニバーサルコンテンツ	K588・5	2023・1	日本各地の酒蔵からピックアップした蔵の歴史や、こだわりの写真を交えて紹介する。米沢からは、日本に現存する酒蔵の中で13番目に古いとされる小嶋総本店を収録。
20	やまがたのおかず	服部 一景／編	河出書房新社	K596・2	2023・6	置賜、村山、最上、庄内と地域ごとの食文化を紹介するレシピ本。置賜地域からは米沢鯉、おかひじき等について掲載。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
21	JR路線大全3 羽越・奥羽本線	「旅と鉄道」編集 部／編	山と溪谷社	K6862	2023・6	新潟と秋田とを結ぶ羽越本線と、山形と青森とを結ぶ奥羽本線を中心にJRの重要幹線と周辺路線を詳解する一書。山形新幹線の車両写真も収録。
22	企画展 今泉篤男と美術 米沢市上杉博物館／編	米沢市上杉博物館／編	米沢市上杉博物館	K721・9	2023・7	2023年7月8日から8月20日まで、米沢市上杉博物館で開催された企画展「今泉篤男と美術」展の図録。
23	撮る力見る力	渡部さとし／著	ホビージャパ ン	K740・4	2023・2	フリーランスカメラマンの著者がカメラマン、YouTubeでの活動の経験を軸にカメラや写真との向きあい方を対談形式で語る一書。著者は米沢市出身。
24	動画でわかるヒモトレ入門 ひもさえあればどこでもできる おどろくほど楽になる	小関 勲／著	日貿出版社	K780・7	2023・1	一本の紐を用意するだけでできる簡単トレーニングの入門書。2017年刊行の『DVD付きヒモトレ入門』の一部内容を變更および加筆し、改題。著者は米沢市出身。
25	だけどぼくらはくじけない 井上ひさし歌詞集	井上ひさし／著 町田 康／編	新潮社	K911・6	2023・3	川西町出身の小説家・劇作家である著者の初の歌詞集。「ひよっこりひよたん島」といったアニメソングから、演劇の劇中歌まで、63の歌詞を収録。
26	うま 馬に乗ってこの世の外へ	井上ひさし／著	集英社	K912・6	2022・12	没後に見つかった井上ひさしの未発表戯曲を小説として刊行。佐々木喜善が収集した伝承・昔話をまとめた『聴耳草紙』の一篇「馬喰八十八」を基に描かれた作品。
27	山形怪談	黒木あるじ／著	竹書房	K913・6	2023・2	山形県で語られる怪談、民話を集めた一冊。米沢地域の怪談として「これらのばば」を掲載。
28	兵、北の関ヶ原に消ゆ 前田慶次郎と山上道牛	近衛 龍春／著	KADOKA WA	K913・6	2023・4	織田信長、豊臣秀吉に仕えた山上道牛と戦国の傾奇者・前田慶次の戦場での活躍を描く。2016年刊行の『戦って候 不屈の武将・山上道牛』を改題、大幅に加筆修正した時代小説。
29	米沢ベニバナ殺人事件	鳴神 響一／著	徳間書店	K913・6	2023・3	米沢を舞台に、調査官の朝倉真冬が殺人事件の解決に奔走するミステリー小説。米沢城址、米沢織物など、実際の米沢と関連する物事が出てくる。
30	探偵は田園をゆく	深町 秋生／著	光文社	K913・6	2023・2	南陽市出身の著者による長編小説。山形市を舞台に元警察官である女性探偵・椎名留美が活躍するミステリー。

法人賛助会員名簿

(令和五年十一月一日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。

東京支部

(有)アルックス

舟寿し

くさかり小児科

(株)向洋アドシステム

(有)大雪インテリア

(代表者 敬称略)

宮坂孝夫

深澤和子

草刈章

金子晃司

岡本葵

米沢支部

相田建設(株)

(株)小嶋絵本店

置賜建設(株)

(株)大清

(株)丸定

(代表者 敬称略)

相田晃輔

小嶋健市郎

川野敬典

中村友彦

佐藤良喜

米沢中央高等学校同窓会 椎の実会

さの医院

中條医院

若松工業(株)

(財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社米沢支社

東北警備保障(株)

(株)カワサキ印刷

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニック

米澤信用金庫

(株)さらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

(有)今泉商店

石橋医院

佐野隆一

中條明夫

片倉尚

宮坂直樹

渋谷賢一

安部幸裕

磯野文久

石田一郎

小林裕明

武田誠一郎

川崎信一

佐藤大介

田中雄二

加藤秀明

国井知秀

廣居誠

菊地智

今泉宏

石橋正道

山岸草木工芸(株)
 (株)本多建設
 佐々木隆一司法書士事務所
 (株)荘内銀行米沢中央支店
 (株)平山孫兵衛商店
 (株)米沢牛 黄木
 村正運輸(株)
 (株)ナウエル
 (株)川島印刷
 (株)タスクフーズ
 (株)上杉コーポレーション
 (株)データシステム米沢
 金子建設工業(株)
 米木建設(株)
 (株)青葉堂印刷
 太田建設(株)
 (株)エービーエム
 (株)後藤組
 ハイメカ(株)
 (株)村山商工

山岸幸一
 本多作之助
 佐々木隆一
 渡邊敦広
 平山順一
 黄木修太郎
 村山正博
 酒井登
 川島良範
 宮坂宏
 遠藤勲
 高橋孝二
 金子尚人
 前山郁朗
 中村啓二
 太田政往
 赤間俊明
 後藤茂之
 横山千広
 村山順一

(株)天元台	山田長一
ジーエスデザイン(株)	福崎真知子
東亜熱研工業(株)	増村泰人
(有)HYOコーポレーション	兵庫等
日台マシナリー(株)	丹野信嗣
(株)小島洋酒店	小島長五郎
(株)ニューテックシンセイ	乗原晃
(株)我妻組	我妻悦雄
我妻建設工業(株)	我妻弘一
吉田建設(株)	吉田浩人
浜理P F S T(株)	渡部輝良
(有)山形工房	梅津雄治

仙台支部	(代表者 敬称略)
仙台環境科学(株)	加藤啓二
・東京支部 五社	・米沢支部 五十七社
・仙台支部 一社	合計 六十三社

公益
社団法人

米沢有為会役員名簿

令和五年十一月現在

名誉会長
名誉会員

会長・代表理事
副会長・代表理事
理事

監事
諮問委員

(東京)
(同)
(仙台)

上杉邦憲 下條泰生 須貝英雄 大滝則忠 平山英三 加藤国雄 伊藤和夫 小野庄士 加藤正憲 工藤美知尋 菊地隆雄 五雲寺利喜夫 須貝修治 鈴木政彦 滝口宮雄 手塚政彦 矢尾板操 横井博 近野久左門 松崎祐樹 赤井淳一 飯沼俊男 (東京) 遠藤光広

(同) 大武清夫 (同) 加川巖司 (東京) 金子晃司 (米沢) 金子治章 (東京) 草刈周章 (同) 紺野耕三 (同) 佐藤陞三 (米沢) 佐藤好明 (東京) 佐藤明彦 (米沢) 高橋節彦 (米沢) 瀧澤新子 (仙台) 林昭一 (北海道) 田村邦夫 (同) 丹野久夫 (米沢) 塚田昌伸 (仙台) 長澤健一 (米沢) 仁科義英 (東京) 西村純一 (同) 羽村弘宣 (同) 樋口正宏 (同) 平山宏博 (米沢) 宮坂宏男 (東京) 村石房男

相談役
(米沢)

山本勇一郎 大関修敬 大友久太郎 小森力雄 佐藤毅 中條仁 米野宗禎 種村信次

理事役割分担

○総務部

部長 五雲寺卓 事務局担当 五雲寺卓 事務局長 加藤正憲 事務局長 倉田和子 同 参事 田中勝代 同 参事 村田絹代 同 参事 財務担当 五雲寺卓 施設担当 菊地隆雄 同 参事 高瀬勝 組織担当 (東京) 工藤美知尋

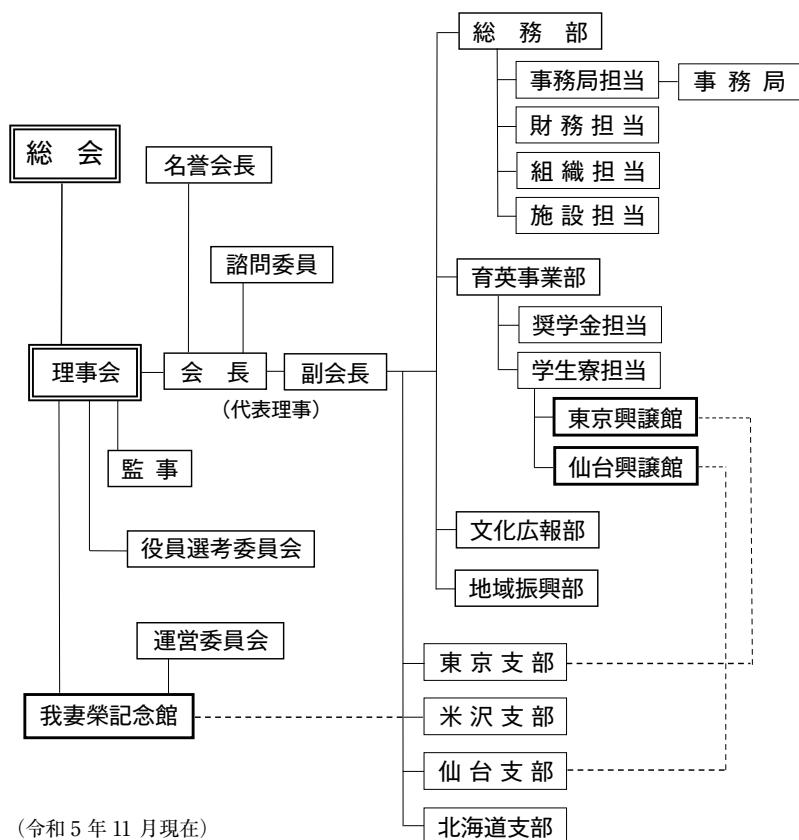
○育英事業部

部長 小野庄士 副部長 伊藤和夫 募集担当 手塚宮雄 奨学金担当 菊地隆雄 学生寮 (東京) 担当 菊地隆雄 学生寮 (仙台) 担当 滝口政彦 ○地域振興部 部長 横井博 理事 伊藤和夫 参事 安部徹 同 岸順一 同 齋藤久一 同 長谷川健

支部長 中川 勝	米沢支部役員	山田幸生	村石房男	舟山国夫	佐藤孝夫	佐藤泰伸	金藤民夫	神野弘隆	遠藤和子	岩瀬上麻矢	井上部洋司	安部壮一郎	安部宗禎	米原俊禎	石原力雄	小森祐樹	大瀧達朗	宮坂孝夫	濱田中吾愛勝	須貝利喜夫
		田幸生	石房男	舟山国夫	佐藤孝夫	佐藤泰伸	金藤民夫	神野弘隆	遠藤和子	岩瀬上麻矢	井上部洋司	安部壮一郎	安部宗禎	米原俊禎	石原力雄	小森祐樹	大瀧達朗	宮坂孝夫	濱田中吾愛勝	須貝利喜夫
		田幸生	石房男	舟山国夫	佐藤孝夫	佐藤泰伸	金藤民夫	神野弘隆	遠藤和子	岩瀬上麻矢	井上部洋司	安部壮一郎	安部宗禎	米原俊禎	石原力雄	小森祐樹	大瀧達朗	宮坂孝夫	濱田中吾愛勝	須貝利喜夫
		監事 相談役 諮問委員																		

公益社団法人 米沢有為会 組織一覧図

(意思決定し業務執行を分掌する理事会体制)



(令和5年11月現在)

本部・各支部事務所所在地

本部

☎ 一八二・〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (〇三)(三三〇九)三三〇一

ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.org/>)

東京支部

☎ 一八二・〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (〇三)(三三〇九)三三〇一

米沢支部

☎ 九二一・八五〇

山形県米沢市金池五丁目二二五
米沢市役所内 秘書広報課内

電 (〇三八)(二二)五一二一 FAX (〇三八)(二二)五五四一

仙台支部

☎ 九八〇・八七四

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六―二一
仙台興譲館内

電・FAX (〇二二)(二二二)四七九〇

北海道支部

☎ 〇六〇・〇六二

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T G 札幌ビル7F
(株)建社内 田村邦夫
電 (〇一一)(二七一)二五八五

米沢有為会設置施設

東京興譲館 ☎182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309)3302

仙台興譲館 ☎980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222)4790

我妻榮記念館 ☎992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24)2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいけませんので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年会費 一〇、〇〇〇円 以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることもできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

置賜地区の自治体所在地

米沢市

〒992-8501 米沢市金池五丁目 2 番25号 ☎0238-22-5111

長井市

〒993-8601 長井市栄町 1 番 1 号 ☎0238-84-2111

南陽市

〒999-2292 南陽市三間通436番地の 1 ☎0238-40-3211

高畠町

〒992-0392 高畠町大字高畠436番地 ☎0238-52-1111

川西町

〒999-0193 川西町大字上小松977番地1 ☎0238-42-2111

小国町

〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地 ☎0238-62-2111

白鷹町

〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地 ☎0238-85-2111

飯豊町

〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地 ☎0238-72-2111

後記

☆新緑に染まる吾妻連峰を望みながら、梅雨の晴れ間の六月二十五日（日）、定時総会が四年ぶりに米沢市の伝国の杜で開催されました。これまで新型コロナウイルス感染症の影響で定時総会も理事会もZoomを利用したりリモート会議でしたが、五月八日からの五類移行もあり、ようやく米沢に復帰し、役員や会員が直接対面できたのは大変喜ばしいことでした。今年は役員改選時期に当たり、十四名の理事及び二名の監事の選任案をはじめ、六つの議案が可決されました。この定時総会報告をはじめ、表彰や本部各部門の活動、支部活動など多彩な記事を掲載して、『米沢有為会々誌』第七十三号をお届けいたします。ご寄稿いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

☆今年十月二十一日（土）、米沢市が誇る名誉市民我妻榮先生の没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年の記念事業が実施されました。実行委員会の二年に及ぶ入念な準備の下、先生の銅像除幕式をはじめ、式典や講演、パネルディスカッション、法律相談会、市立米沢図書館と記念館における特別展など多彩な事業が展開されました。全国の会員・非会員の皆様から多額の寄付をいただきましたので、伊藤和夫実行委員長のお礼を添えてご芳名を掲載させていただきます。

☆一九七三（昭和四十八）年十月二十一日、我妻榮先生が七十六歳で逝去された後、その年の『世界』十二月号（追悼「我妻榮氏」岩波書店）に、「憲法問題研究会」の四名の会員が追悼のことばを寄せています。我妻先生が副代表格として支えた代表の大内兵衛氏（当時…元法政大学総長）は、「ここでの彼の勇姿もまた颯爽としていて、誰よりも情熱的であった」、末川博氏（立命館大学名誉総長）は、「学問研究の自由について、幅の広い柔軟な姿勢をとりながら研究の自由を守りぬく情熱を秘めておられる」、宮沢俊義氏（東京大学名誉教授）は、「ほんとうに彼は『面倒見』が良かった。頼まれると、いやとは言えなかった。それには行くところとして可ならざるはないかれの有能ぶりが、あずかって力があつたろう」、そして辻清明氏（東京大学教授）は、「先生は、一旦やり出したことは、最後までやり抜き気性の持ち主であった。文字どおり『わが道を行く』先生の姿があつた」と、全員我妻先生の崇高なお人柄を偲んでおられました。

☆今年もまた副読本『故郷愛した我妻榮先生』が米沢市内の小学五年生全員に配布されていますが、子どもたちが先生の深い思いと偉業を知って勉学やスポーツに励み、将来に向けてたくましく成長してほしいと思います。時の流れは本当に速いものです。この一年も瞬く間に過ぎてしまいました。迎える年は辰年。皆様の好奇心や勇気、努力が実り、健康で充実した一年となるようご祈念いたします。（文化広報部長 手塚宮雄）

広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

(敬称略・五十音順)

上杉観光開発株式会社

株式会社 上杉コーポレーション

株式会社 羽陽印刷

株式会社 エービーエム

株式会社 川島印刷

株式会社 小嶋総本店

株式会社 スリーウッド・プロデュース

仙台環境科学株式会社

株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗

東北警備保障株式会社

株式会社 ナウエル

日本橋小舟町 舟寿し

株式会社 日山

株式会社 本多建設

吉野石膏株式会社

米沢牛銘柄推進協議会

米沢商工会議所

米沢信用金庫

株式会社 ワイ・エム・ピー

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60

電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本社

〒992-0003

南陽営業所

〒992-0472

山形県米沢市窪田町窪田584-2

☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

山形県南陽市宮内4641

☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

作り手の 心意気を 見える化する

心意気とは作り手のこだわりや想い、魅力です。
良質なモノやサービスが溢れる世の中で
心意気に見える化することが、
お客さまに選ばれ続ける理由になると信じています。
長年培ってきた印刷技術と、
今も磨き続けているクリエイティブな力を使って
私たちは心意気に見える化していきます。



心意気デザイン

運営：株式会社 川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2

Tel 0238-21-5511

受付時間／平日 9:00～17:00

公式サイトはこちら

<https://kokoroiki.design/>



純米酒 東光醸造元

株式会社 小嶋総本店

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL 〇二三八 一三二四八四八

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒



東光 純米吟醸原酒

三年連続金賞受賞

ワイングラスでおいしい
日本酒アワード

〇お近くのお酒屋さんで買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト

大泉逸郎「孫」(テイチク) 河北町
 浜博也「知りたがり」(テイチク) 飯豊町
 奥山えいじ「会津想々」(テイチク) 尾花沢
 (カラオケで唄ってください)

代表取締役
プロデューサー

木村尚武

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

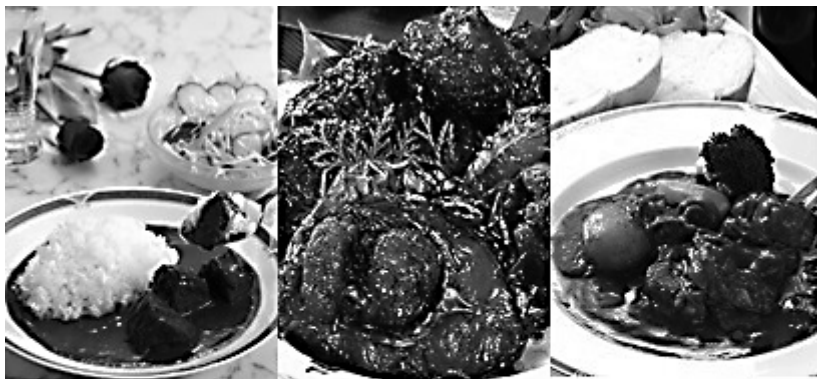
環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録
宮城県知事 第H7-001号(濃度)
仙台環境科学株式会社
代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号
TEL (022) 263-1361
FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



創業百七十余年

みやさかや



株式会社 タスクフーズ

山形県米沢市相生町7-130

TEL:0120-25-7188

水曜日定休日有ります

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて51年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号

山形県米沢市アルカディア1丁目808-17

電話 0238-29-0005

FAX 0238-29-0015

URL <http://www.next-alert.co.jp>

- 営業品目**
- ・ 機械警備
 - ・ 常駐警備
 - ・ 交通誘導業務
 - ・ イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
 - ・ 施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
 - ・ 清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

日本橋

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
培われた江戸前の技が活きる
お寿司・お刺身と共に四季折
々の御料理がご堪能いただけ
ます。お座敷はさまざまな個
室、カウンター、テーブル席
もご用意いたしております。
大小ご宴会から御家族、ご友
人との御会食まで幅広くご利用
頂けます。

深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2 深澤ビル
<http://www.funazushi.info/>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30

PM 4:30~PM10:00

(PM9:30オーダーストップ)

(土曜日の夜は、10名様前後で要前日予約)

【定休日】

日曜日、祝日、第四土曜日

※ 座敷は全席、椅子席になります



家族を愛する
ママを応援する家。



住宅の新築

♥ ママ応援住宅

♥ 子育て世代応援住宅

建替え、二世帯住宅など



リフォーム

水まわり工事など

小さな修繕から、増改築、

全面リフォーム(新築二世)まで

不動産

土地の売買や
中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ 本多建設

検索



株式
会社

本多建設

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号: 山形県知事許可(特-30)第500142号 / 一級建築士事務所登録: 山形県知事登録(1104)第1715号 / 宅地建物取引業者免許番号: 山形県知事(11)第1234号

いつも一緒に あなたのそばに



しんきん

**ドコモ
スマホ
教室**



さまざまなカリキュラムで
随時開催中!

参加無料!

ドコモ以外の方も大歓迎!

**まだスマホを
持っていないでもOK!**

※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。※ドコモショップ店頭または電話、WEBにて事前にお申込みください。※受講にはdポイントクラブ入会、dポイントカード利用登録、dアカウント発行が必要です。※一部有料の講座があります。

**ドコモスマホ教室の参加には、事前にご予約が必要です。
ドコモショップ店頭または電話・Webにてお申込みください。**

Web予約はこちら



※ご予約できる席数には限りがございます。
※教室参加時にモバイルデータ通信が発生する場合があります。
※受講にはdポイントクラブの入会、dポイントカードの利用登録、dアカウント発行が必要です。
※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。

※サイトへのアクセスには1バケット通信料がかかります。
※iモードからはご利用になれません。

ドコモショップ米沢春日店

〒992-0044 米沢市春日1-3-31



0120-028-280

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



一帯1000人
全国携帯電機販売代理店協会

ドコモショップ南陽店

〒999-2241 南陽市郡山624-1



0120-090-128

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



上杉神社御参拝や上杉博物館・上杉
伯爵邸御見学など、上杉文化エリアを
ご散策の際には、ぜひお立ち寄りください。
米沢・山形の逸品をお取り寄せできる
上杉城史苑ネットショップもご利用ください。



上杉城史苑

TEL0238-23-0700

米沢市丸ノ内1丁目1-22

<https://uesugijoshien.jp>



株式会社
羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22
T E L (0238) 23-0467(代)
F A X (0238) 23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

お葬式のための新しい会員制度ができました

入会金
10,000円
のみ

\ 互助会掛金も無駄なく使える /

ナウエルメンバーズ

ご葬儀割引特典

一般価格47万円の葬儀プランが
会員様なら**37.1万円**に!

基本プラン
20%
OFF

会場費が
会員特別
価格

祭壇
10%
OFF

さらに 法要料理 5%OFF、返礼品 10%OFF など特典多数!

詳しくはお電話・WEBよりお問い合わせください



0120-88-3306

株式会社ナウエル
9:00 ~ 18:00 (日曜定休)



山形県置賜地方の求人・情報サイト

オキタマズカン

掲載企業募集中!



まずはサイトを
チェック!

掲載料 月額 **10,000円**



Facebook



Instagram

お問い合わせ

株式会社ナウエル

☎ 0238-22-1234

9:00 ~ 18:00 (日曜定休)

日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので、日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

High-Clean Board

タイガーハイクリンボード

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(財)日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物汚染低減建材」として認定されました。(認定番号: BCL-A18 T-7) (特許申請中)



YOSHINO
吉野石膏

[本社] 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
http://www.yoshino-gypsum.com/
代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年8月2日復刊
第73号
令和5年12月10日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 平山 英三
編集 文化広報部長 手塚 宮雄
東京調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302
印刷 ㈱羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467